關係哲學綱要

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）2137

序

今日ノ如ク世界藝文交通ノ発達セタル時ニ世遭遇シテ東西古今ノ思考ヲ折衷シテ一ノ新系統ヲ建設スルハ哲学界ノ一大快事タリ而シテ東洋別シテ印度哲学中ニハ往々高尚深遠ナル原理ヲ含有スト雖モ第一ニハ宗教的聖教量ノ部分甚タ多キト第二ニハ宗派分裂ノ甚タ多クシテ統一スル所無キト第三ニハ各宗派間ニ於ル煩瑣的争論ノ甚ダ多カリシト第四ニハ系統的ニ之ヲ論述スル者ノ甚タ多カラザリシ

トノ為メニ人往々其要領ヲ得ニ困メリ
故ニ余自ラ圖ラスモ東西古今ノ哲学的原理ヲ折
中シテ此關係哲學綱要ノ一書ヲ著ス而シテ之
ヲ再讀スルニ東西古今哲學的各系統及ヒ宗教
的各宗派カ其根本的基礎トシテ主張スル所ノ
原理ハ大抵本系統中ノ一理法若シクハ一契機
トシテ之ヲ統紀シ之ヲ包含シタル者ノ如シ乃
チ之ヲ世ニ公ニシテ以テ同好者ノ教ヲ乞ト
云尓

明治三十九年

著者識

東京帝國大學

關係哲學綱要

目錄

說明ノ區分

第一章

緒論第一　哲學研究ノ起源及ヒ關係哲學ト從前ノ哲學諸家系統トノ區別ニ就テ

第二章

緒論第二　認識論ノ基礎ニ就テ

第三章

推論第一　宇宙上ニ於ケル一切万有ハ皆相

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）2137

待的ニ關係シテ存立スル所ノ兩項中ノ一
項トシテノミ存立スルノ理ニ就テ

第四章

推論第二　相待的ニ關係シテ存立スル所ノ兩項ノ實在ニ就テ

第五章

推論第三　相待的ニ關係シテ存立スル所ノ兩項存立ノ理。法ニ就テ

第六章

推論第四　四種充足的理法ノ効力トシテ

東京帝國大學
榛原藏書

依自性ガ表現スル所ノ四種契機ニ就テ

第七章

應用第一　四種契機ノ形而上學ニ於ル應用ニ就テ

第八章

應用第二　四種契機ノ宗教哲學ニ於ル應用ニ就テ

第九章

應用第三　四種契機ノ倫理哲學ニ於ル應

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）2137

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 2137
挟み込み物

待的ニ關係シテ存立スル所ノ兩項中ノ一
項トシテノミ存立スルノ理ニ就テ

第四章

推論第二　相待的ニ關係シテ存立スル所
ノ兩項ノ實在ニ就テ

第五章

推論第三　相待的ニ關係シテ存立スル所
ノ兩項存立ノ四種充足的理法ノ効力トシテ

第六章

推論第四　四種充足的理法ノ効力トシテ
關係自性ガ表現スル所ノ四種契機ニ就テ

第七章

應用第一　四種契機ノ形而上學ニ於ル應
用ニ就テ

第八章

應用第二　四種契機ノ宗教哲學ニ於ル應
用ニ就テ

第九章

應用第三　四種契機ノ倫理哲學ニ於ル應

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）2137

應用第四　哲學上ニ於ル種々ノ概念ノ解
釈ニ就テ

第十章

結論　前各章ニ於ル研究ノ結果トシテ對
定セル所ノ八大事項及ヒ四種ノ察法ノ大
要ニ就テ

終

東榛原製

關係哲学綱要

子爵　渡邊國武　講述

說明ノ區分

關係哲学ノ講述ハ、之ヲ四部ニ大別スル筈
ニシテ、緒論是ハ本講述ニ入ルノ準備ヲ入
ルノデ有テ、即チ第一章及ヒ第二章緒論第
一節ガ其レデ有ル、第二ニハ、推論是レハ
本系統精神骨髓ノ在ル所ヲ說明スルノデ
有テ、即チ第三章第四章第五章及ヒ第六章

Introduction
Investigation

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 2137

ノ一半（推論第一第二第三第四）ガ其レデ有
ル、第三ニハ、應用是レハ本系統ニ具有（ニシ表現）スル
所ノ理法（Laws）及ビ契機（Momenta）ノ形而上学、宗教哲学、倫
理哲学及ビ哲学上各種ノ概念ニ向テ應用
スルノデ有テ、即チ第六章ノ一半、第七章、第
八章及ビ第九章應用第一第二第三第四）ガ、
其レデ有ル、第四ニハ結論（Conclusion）是ハ本講述目的
ノ歸着スル所ヲ示スノデ有テ、即チ第十章
（結論）ガ其レデ有ル、

第一章　緒論第一　哲学研究ノ起発點

及ビ關係哲学ト從前ノ哲学諸
系統トノ區別ニ就テ、是人生ニ於テ起ル
我ハ如何ニ生活スル可キ乎？ト云フ問題ニ對スル哲学研究ニ於ケル第
一ノ動機（Motive）デ有ル、
我ハ如何ニ生活スル可キ乎ヲ知ラウトスルニハ、
我ハ何デ有ル乎ヲ知ラネバナラヌ又我ハ何デ有
ル乎ヲ知ラウトスルニハ我ト關係シ我ト共存
スル所ノ非我即チ一切万有ノ何デ有ル乎ヲ知
ラネバナラヌ又我及ビ非我ノ何デ有ル乎ヲ知ラ

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）2137

ウトスルニハ一切ノ実在ノ何デ有ルヤヲ知ラネバナラヌ又一切ノ実在ノ何デ有ルヤヲ知ル所デ始テ人類ノ智的要求ヲ充タス可キ所ノ形而上学（第六章）人類ノ情的要求ヲ充タス可キ所ノ宗教哲学（第七章）及ビ人類ノ意的要求ヲ充タス可キ所ノ倫理哲学（第八章）ノ三ツガ皆其基ツク所ノ根本的基礎ヲ定ムルガ出来テ始テ我ハ如何ニ生活スル可キヤノ道ヲ知ルコトガ出来ルノデ有ル

備考　我ト非我ト相待的ニ存立シテ居ル間ニ我ガ受動的状態ニ在レバ智的作用トナリ（第六章ニ所謂否自肯他的契機）受動的状態ニ発動的状態ト発動的状態ニ在レバ意的作用トナリ（肯自否他的契機）発動的状態トガ共存スル情的作用トナリ（自他俱肯的契機）二ツノ状態ガ冥合スレバ思考的作用ト為ル（自他俱否的契機）ノデ有ル是ハ予ガ近日著述セヤウト思テ居ル所ノ心理学ニ於ル心ノ能力ノ分類ノ大綱デ有ルガ今智情意ノ三作用ニ就テ一言シタカラ序ニ附記シテ置

東京帝國大學

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）2137

ク而シテ智情意三作用ノ要ヲ完メス可
ト称ノ形而上学宗教哲学及ヒ倫理哲学ハ
第六章第七章及ヒ第八章ニ至テ之ヲ説明
スルガ其思考的作用ハ本講述全体ガ其レ
デ有ルト云フヲ言フマデモ無イ而シテ本講述ノ目的ハ是等人類ノ總テ
ノ心的作用ニ向テ満足ヲ與ヘタイト思フ
ヨリ外ニ希望ハ無イノデ有ル
ト云フ譯デ有ルカラ生活的問題即チ実行的問
題ハ哲学研究ノ起発點タル
デ有ルケレドモ研究ノ順序カラ言ヘバ先ヅ実
在的問題即チ理論的問題ノ解決シテ左ウシテ
生活的問題即チ実行的問題ニ移ラネバナラヌ
ト考ヘル然ラバ則此宇宙上ニ於ル一切万有ノ
実在ハ何デ有ル乎？
此問題ハ実ニ東西古今ノ哲学界ニ於テ千古未
決ノ大問題デ有ルガ予ハ本講述ノ對象ヲ明ニ
スルガ為メニ是迄ト雖モ之ニ向テ簡單ナル一ノ
解答ヲ下シテ置カネバナラヌ又曰ク「関係ノ外ニ
物無シ一切ハ関係ナリ」語ヲ換ヘテ言ヘバ「一切

there is nothing, all are in it.
Without relation

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 2137

万有ノ実在ハ相待的ニ関係シテ存立スル所ノ
reality of all beings is not the two terms existed relating relatively,
but relation itself.
両項ニ非ズシテ関係自性ナリ」

尚簡單ニ関係自性ヲ釈義スレハ「関係自性ハ一
ノ現象ノ中ニ一ノ現象ニ依テ在ル所ノ他ノ現
象ト他ノ現象ノ中ニ他ノ現象ニ依テ在ル所ノ
一ノ現象ト実在的一致ナリ」

備考　世界各國語ハ八品詞若シクハ十品
詞等ニ分類シテ居ルガ亦摇ニ概念ヲ表示
スルハ名詞形容詞動詞ノ三語ニ限ルカラ
シテ之ヲ名ツケテ概念語ト謂ヒ其他ノ前

東榛原郡

詞副詞等ハ只此概念語ノ関係ヲ明ニスル
ガ為メニノミ用ヰルノデ有ルカラ概念語
ト區別スルガ為メニ是ヲ名ヅケテ形成語
ト謂フノデ余ノ考デハ何ンナ高尚深遠
ナル哲学家デ有ラウトモ苟クモ人類ノ言
語ヲ以テ之ヲ説明シヤウトスルニハ其結
論ノ在ル所ハ是非共此三種ノ概念語ヲ以
テ簡單ニ之ニ答ヘルノガ出来ネバナラヌ又
ハデ有ルト考ヘル

第一問即チ一切ハ何デ有ル乎ノ問ニ対テハ余

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）2137

一、貴説ノ、（東主張ノ一）
疑ノ如ハ（主張ノ）中ニ於テ
見解ノ中ニ（主張ノ）見解
尚第二問題ニ関シ自説ハ（第二問題ニ関シ自説ハ）一
或ハ又問題ヲ換ヘテ一
一問一切ハ如何ニ有ル
為レヲ、有ル乎？第三問ト問ハバ余ハ簡單ニ
三種ノ概念語ヲ以テ之ニ答ヘルコトガ出来ル
備考　世界各国語ハ八品詞若シクハ十品
詞等ニ分類シテ居ルガ亦摇ニ概念ヲ表示
スルハ名詞形容詞動詞ノ三語ニ限ルカラ
シテ之ヲ名ツケテ概念語ト謂ヒ其他ノ前

東京原製

詞副詞等ハ只此概念語ノ関係ヲ明ニスル
ガ為メニノミ用ヰルノデ有ルカラ概念語
ト區別スルガ為メニ是ヲ名ヅケテ形成語
ト謂フソコデ余ノ考デハ何ンナ高尚深遠
ナル哲学家院デ有テモ苟クモ人類ノ言
語ヲ以テ之ヲ説明シヤウトスルニハ其倍
論ノ在ル所ハ是非共此三種ノ概念語ヲ以
テ簡單ニ之ニ答ヘルコトガ出来ネバナラヌ又
ソデ有ルト考ヘル

第一問即チ一切ハ何デ有ル乎ノ問ニ対テハ余

Begriffswoerter
Formwoerter

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）2137

ハ名詞ヲ以テ一切ハ關係デ有ルト答ヘル第二
問即チ一切ハ如何ニ有ル乎ノ問ニ向テハ余ハ
形容詞ヲ以テ一切ハ相待的デ有ルト答ヘル又
第三問即チ一切ハ何ヲ為レバ、有ル乎ノ問ニ
向テハ余ハ動詞ヲ以テ宇宙ハ關係レバ、有ル
ト答ヘルノデ有ル

是ガ則本講述ノ根本的原理デ有ル然レドモ
其然ル所以ヲ説明スルノハ則本講述全体ノ職
掌デ有ルカラ今此緒論デハ寧ロ其説明ノ區域
ヲ限リテ讀者ニ向テ唯此關係哲學ト他ノ哲學
諸系統ト其研究ノ基礎ヲ異ニシ又其研究ノ方
法ヲ異ニスル所ノ區別ヲ明ニシテ置クダケ
ニ止メテ置カネバナラヌ又其區別ト言フテモ外
デハ無イ從前諸家ノ哲學系統デハ其研究ノ基
礎ヲ相待的ニ關係シテ存立スル所ノ而項中ノ
何レカ一方ノ上ニ置テ研究シタノデ有ル即チ
カントノ純理批判デハ心ノ先在ヲ假定シテ其
外界ヲ認識スルノ理法ヲ規定シ口フリノ人類
理會論デハ物ノ先在ヲ假定シテ其心ヲ感覚ス
ル所ノ理法ヲ規定シタガ此關係哲學デハ其基

礎ヲ立テニ此両項ヲ保有スル所ノ関係自性ノ上ニ置テ具研究ヲ始ルト言フノガ他ノ哲学諸系統ト異ル所ノ一大区別デ有ル尚読者ヲシテ其了解ヲ容易ナラシムルガ為メニ一例ヲ挙テ之ヲ言ヘバ従前哲学ノ諸系統中唯心論派ハ其研究ノ基礎ヲ心ノ上ニ置キ唯物論派ハ之ヲ物ノ上ニ置テ専ラ之ヲ研究シタノデ有ル然ルニ元来心ト物トハ相待的ニ関係シテ存立スル所ノ両項デ有テ我然メル二物デハ無イ一ノ関係自性ヲ能認識ノ方面カラ望メテ其認識セラレムル所ノ作用ヲ物ト名ヅケタマデノコトデ有ルカラ能認識ノ心ガ有リ所認識ノ物ガ有ルカラ能認識ノ心ヲ離レテ所認識ノ物無ク所認識ノ物ヲ離レテ能認識ノ心ハ無イノデ有ルデ有ルカラシテ一方即チ唯心論派デ能認識ノ心ガ有ルカラ所認識ノ物モ有ルノデ有ルカラ心カ実在テ有ルト言ヒ得ルト同時ニ他ノ一方

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）2137

即チ唯物論派デハ所謂該ノ心モ有ルノデ有ルカラ於テモ言ヒ得ルノデ有テ唯心論ノ唯物論者ガ容易ニ其非ヲ辨破シ得ルト同時ニ唯物論者ガ主張スル所モ亦全ク其非ヲ辨破シ得ルノデ有ル元来此宇宙上ニ於ル一切万有ハ皆相待的ニ関係シテ存立シ居ルト云フハ東西古今ノ哲学界又ハ哲学界以外ノ人デモ平生之ヲ口ニシ通常皆ンド其真理デ有ルコトヲ認メテ居ルヤウデ有ルガサテ実在問題ノ解決トナルトイフデモ相待的ニ関係シテ存立スル所ノ両項中ノ何レカ一方ニ偏僻スル即チ前ニ挙タ例カラシテ言ヘハ唯心論的傾向ニ偏僻シ唯物論的傾向ニ偏僻シ唯物論的傾向ニ偏僻スルニ非レハ唯物非レハ唯心論的傾向ニ偏僻スルニ非レハ唯物又次第デ有テ是ガ則印度希臘已来実在問題ガ未了未決ノマヽニ今以テ保留セラレテ居ルノミナラス又実在問題ノ解答ハ古往今来大抵皆同一環象上ノ同一循環ニ陥黙ノ間ヲ循環去来シテ居ル

東京帝國大學藏書

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 2137

ノニテ有テ一モ其範圍外ニ脱出シタル者ガ無イ所以デ有ルト考ヘル即チ実在問題研究ノ基礎ヲ相待的ニ關係シテ存立スル所ノ兩項中ノ何レカ一方ノ上ニ置テ偏僻ノ論ヲ主張スル。実在問題ノ解決上ニ於ル古代カラ哲學界ノ一大痼疾デ有ルト考ヘルノデ有ル畢竟相待的ニ關係シテ存立スル所ノ兩項中ノ一項即チ或ル理法ノ効力ヲ言ヘハ全タ他項ノ効力ニ因テ存立スル所ノ一項ヲ以テ哲學全部研究ノ基礎トシヤウトスルノハ土臺カラシテ甚タ無理ナ話デ有ルト考ヘルカラ此ノ關係哲學デハ其研究ノ基礎ヲ相待的ニ關係シテ存立スル所ノ兩項ノ上ニ置ヤウトスルデハ為シ其研究ノ基礎自性ヲ以テ其研究ノ對象トシ其關係自性ノ上ニ置テ其具有スル所ノ理法及ニ其表現スル所ノ契機ヲ研究シヤウト考ヘルノデ有ル是ガ則此關係哲學ト他ノ哲學諸系統ニ其研究ノ基礎ヲ異ニシ又其研究ノ方法ヲ異ニスル所ノ一大區別デ有ル

備考　已ニ關係ノ外ニ物無シ一切ハ關係

ナリト言フヲカラハ必ズシモ故ラニ自性ノ
一語ヲ附加ヘテ関係自性ト言ハズトモ分
リ切タリテ有ルガ此関係ト云フ一語ニ就
テハ世人カ往々誤解シ居ルモ有ルニ
依ヘル第四章参照カラ関係セラレテ存立
スル所ノ両項ト區別スル為メニ態ト自性
ノ一語ヲ加ヘタノデ有ル

Itself

東京帝國大學

第二章　緒論第二　認識論ノ基礎ニ就テ

余ハ尚本講述ノ緒論トシテ認識論ノ基礎ニ就
テ一ト一言シテ置カサルヘカラス
認識ハ主観ト客観トノ関係ニテ存立スル所ノ両
項デ有テ主観ハ客観ニ対スル主観客観ハ主
観ニ対スルノ客観デ有ルカラシテ主観ヲ離レ
テノ客観無ク客観ヲ離レテ主観ハ無イノデ有ル
ニモ拘ラス従前ノ認識論者ハ或ハ重キヲ主観

ノ一方ニ置キ或ハ重キヲ客観ノ一方ニ置キテ
認識ノ起源又ハ本質ヲ研究シヤウトシタル所
カラシテ其結果ハ偏ヲ偏ニ流シ偏ニ失敗ニ
終リタルノデ有ル故ニ認識論ノ研究モ亦其基礎
ヲ両項ヲ保有スル所ノ関係自性ノ上ニ置カ子
ハ一歩モ其研究ノ門牆ニダモ近ツクコトガ出来
ヌト云フコトヲ一言シテ置カ子バナラヌ又
ノミナラズ近世欧洲ノ哲学諸家別シテカント
以後ノ哲学諸家ノ多クハヘーゲル即チ之等
ノ反對有ル二モ拘ラズ認識論ヲ以テ哲学研究

ニ入ル可キ唯一必由ノ門戸ト心得古代ノ懐疑
論者ノ口吻ヲ真似テ此門戸ニ由ラヌ所ノ哲学
系統ヲ目シテ独断論ト看做(ガ)余ノ考ヘタル所デハ認
識作用ノ傾向ガ有ル。ト実在トハ相待的ニ関係シテ存立スル所ノ
両項デ有テ一ノ関係自性ヲ認識スル認識セラレ
メラルヽト云フ一ノ方面カラ望メテ其認識ス
ル所ノ作用ヲ認識セラルヽ認識ト名ヅケ認識
セラレムルト云フ他ノ方面カラ望メテ其認識セ
ラレムル所ノ作用ヲ実在ト名ヅケタマデノコト

東京帝国大学

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 2137

hallucination, illusion, misapprehension, misunderstanding.

苟クモ幻覚錯覚誤了若シクハ誤解ニ非ル以上ハ認識ノ認識スル所ガ即チ実在デ有テ実在ノ実在スル所ガ即チ認識デ有ルカラ認識ト言ヘハ必ズ実在ヲ其中ニ包含シ実在ト言ヘハ必ズ認識ヲ其中ニ包含シテ居ルノデ認識論ヲ離レテ実在論ノ研究ノミヤウモ無ク実在論ヲ離レテ認識論ノ研究ノミヤウモ無イノデ有ルト考ヘル

ト云フ譯デ有ルカラシテ哲学研究ノ順序トシテハ或ハ認識論ヲ主位ニ置キ実在論ヲ客位ニ置キ或ハ実在論ヲ主位ニ置キ認識論ヲ客位ニ置キ認識的方面カラシテ実在論ヲ研究スルノモ或ハ実在論ヲ主位ニ置キ認識論ヲ客位ニ置キテ実在的方面カラシテ認識論ヲ研究スルノモ甚シキ研究上ノ便宜ニ一任シテ宜イト考ヘルノデ有ルケレ共大体カラ言フト如ク一概ニ認識論ヲ以テ哲学研究ニ入ル可キ唯一必由ノ門戸ト心得テ居ル哲学家モ少ク無イカラシテ若シ認識論ノ研究ヲ経ズシテ直ニ実在論ノ研究ニ取リ掛リタナラバ認識ノ何物タルヲ度外ニ置イタ所ノ狗断論デ有ルカノ如ク読者ノ疑

東京帝国大学図書之印

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 2137

ノ生ズル懸念モ有ルカラ此結論ニ於テ従前諸
家ノ認識論ヲ概シテ傍僻ニ陥リ概シテ失敗ニ
終リタル事情ヲ一言シテ読者ニ向テ認識論ノ研
究モ亦其基礎ヲ関係自性ノ上ニ置カザレハ一歩
モ進ムコトヲ出来ヌト云フコトヲ説明シテ左ウシ
テ関係自性研究ノ門戸ヲ開イテ置クノカ実際
便宜デ有ルト考ヘルノデ有ルカラ左様ニスル
従前欧洲ニ於ル認識問題ニ関スル所ノ解答ハ
千差万別種々様々デ有ルガ其大要ヲ概括シテ
言ヘハ認識ノ起源ニ関シテ純理論 rationalism 経験論 empiricism ト
東京帝国大学蔵書

ノ二ツ対説ガ有ル又認識ノ本質ニ関シテ観念
論 idealism ト実在論 realism ノ二ツ対説カ有ル其他ノ説ハ大
抵此二様四種ノ又対説ノ枝葉末流デ有ルト言
テ宜シイト思フ

認識ノ起源ニ就テ純理論者ノ説ニ拠ルト主観
ハ先天的ニ悟性ヲ有シテ毫モ感覚経験ニ基ク
カズシテ認識スルト主張スルニ反シ経験論者ノ説
ハ主観ニ在ルト見タ説デ有ル又経験論者ノ説
ニ拠ルト主観ハ感覚経験ニ因テ経験ヲ起リ経験ニ因テ認
識ガ生ズルト主張スルニ反シ認識ノ起源ハ客観

ニ在ルト見タ説デ有ル又認識ノ本質ニ就テ観念論者ノ説ニ接ルト認識ハ正當ニ外界ノ映寫スルノデハ無ク只各人ノ観念ノ表現スルニ過キヌト主張スル是ハ認識ノ本質ハ主観ニ在ルト見タ説デ有ル又実在論者ノ説ニ接ルト客観ハ外界ニ実在シテ主観ハ実在ノ如クニ之ヲ認識スルト主張スル是ハ認識ノ本質ハ客観ニ在ルト見タ説デ有ル純理論者ノ起源若シクハ本質ハ主観ニ在ルト主張スルノデ有ルカラ之ヲ一括シテ主観的認識論者ト言フテ宜シイト又ハ経験論者ト実在論者トハ認識ノ起源若シクハ本質ハ客観ニ在ルト主張スルノデ有ルカラ之ヲ一括シテ客観的認識論者ト言フテ宜シイト考ヘル

前ニモ言フタ如ク主観ト客観トハ相待的ニ関係シテ存立スル所ノ両項デ有テ一ノ者ガ有レハ他ノ者ガ有リ他ノ者ガ有レハ一ノ者ガ有ルケレドモ一ノ者ガ無ケレハ他ノ者無ク他ノ者カ無ケレハ一ノ者モ無ク両者ニ存立シナケレハ則両項同時ニ存立シ存立スレハ則両項同時

ナイノデ有ルコトハ主観客観ト言フ名称ガ明ニ之ヲ自證シテ居ルノデ有ル然ルニ純理論者ヤ観念論者カ認識ノ起源若シクハ本質ハ主観ニ在ルト主張シ経験論者ヤ実在論者ガ認識ノ起源若シクハ本質ハ客観ニ在ルト主張スルノハ所ノ客観ガ有リ若シクハ客観ヲ離レ主観ニ先在スル所ノ主観ガ有テ認識ノ起源若シクハ本質ヲ成スト主張スル譯デ有テ実ニケレカラ又背理ナルケレカラ又自家撞着ナル説デ有ルト言フ事ハ明ニ考ヘル迄モ無イ

東條原藏

ガ一面カラハ観念論者ノ一人トシテ空間時間ハ其衝動ニ由テ起ルカノ如ク考ヘタリ又別ニテカ極端ナル観念論者デ有リナガラ自我ガ自我ノ存立ノ性カメル為メニ自ラ制限シテ非我トノ相待的ニ自我ヲ表現シテ在ウシテ自我ト非我トノ関係ヲ成シタカノ如ク考ヘタリシタノハ知ラズ識ラズノ間ニ純然タル観念論ノ缺典ヲ暴

見レテ自ラ其訳典ヲ備縫シヤウトタ痕迹ガアリ〳〵ト見ヘルノデ有ルソコデ前ニモ言フタ如ク認識ハ主客ト客客トノ関係デ有テ主客ト客客ニハ実ニ認識ノ構成スル所ノ二大要素デ有ル然ルニ今認識ノ起源若シクハ本質ヲ主客ニホメタ所ノ経験論者紀念論者モ又之ヲ客客ニホメタケシカラヌ背理モ実在論者モ前ニ言フタ如クナルケシカラヌ自家撞着ナル説ヲ為ス者ヌルヲ免レヌンダトスレバ論理上必然ノ結果トシテ認識ノ起源及ニ本質ハ是非トモ主客ト客客トヲ保有スル所ノ関係自性ヲ以テ其研究ノ對象トシ之ヲ研究シ所謂純理論又ハ紀念論ノ如キ経験論又ハ実在論ノ如キ理法ノ効力ニ因テ如何ナル契機ノ表現デ有ルカト云フ事カラシテ根本的ニ之ヲ推論シテ見ネバナラヌノデ有ルガ関係自性カ具有スル所ノ理法及ニ其表現スル所ノ契機ガ明瞭ニ了解セラレタ上カラシテ之ヲ見レハ此認識問題ヲ解決スルガ如キハ実ニ快刀デ乱麻ヲ断ツヨリモ容易

東京帝國大學藏書

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）2137

ナ事デ有ルカラ余ハ之ヲ債者ノ應用ニ一任シテモハヤ再ニ此事ニ就テ之ヲ喋々セス又積リデ有ル若シ債者ガ第五章ニ於テ說明スル所ノ四種契機ニ就テ充分ニ研究セラレタナラハ所謂純理論又ハ觀念論ノ如キモ所謂經驗論又ハ實在論ノ如キモ畢竟關係自性カ具有ニ表現スル所ノ一理法若シクハ一契機ニ拘泥スル者タルニ過キナイコトヲ自ラ明瞭ニ了解スルデ有ラウト考ヘル

備考　本章ニ於テ主觀ト客觀トハ相待的ニ關係シテ存立スル所ノ兩項デ有テ一ノ者カ有レハ他ノ者カ有リ他ノ者カ有レハ一ノ者カ有ルケレドモ一ノ者ガ無レハ他ノ者モ無ク他ノ者ガ無レハ一ノ者モ無ク存立スレハ則兩項同時ニ存立シ存立シナケレハ兩項同時ニ存立シナイト云フコトヲ言フタニ就キ一ノ人即チ一ノ主觀ガ無イナラテモ客觀即チ一切萬有カ無クナラテモ仕舞ハヌデハ無イ乎ト言フタ人ガ有ル

東京寫製

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 2137

ガ其一切万有ヵ無クテモ仕舞ハヌト
言フノハ左ウ言フ人ト。相待的ニ関係シテ
存立シテ居ルカラデ有ル若シ人カ実ニ無
クナツタナラハ無クナツタ人ノ方カラ言
ヘハ主観モ客観モ同時ニ無クナツタノデ
有テ普遍的主観ト普遍的客観トハ依然ト
シテ相待的ニ関係シテ存立シテ居ルノデ
有ル

東京帝国大学図書之印

第三章　推論第一

宇宙上ニ於ル一切万有ハ皆相待的ニ関係シテ存立スルノ両項中ノ一項トシテノミ存立スルノ理ニ就テ第一章デモ言フタ如ク一切万有ハ皆相待的ニ関係シテ存立スル者デ有ルト云フハ多クノ人々ガ平生之ヲ口ニシ又通常殆ンド真理デ有ルト認メラレテ居ルノデ有ルト思ハルヽ手近ナ所デキルヒ子ルノ哲学辞書ナドニモ関係ノ一語ヲ解釈シテ「宇宙上ニ於ル一切万有ハ関係

In der Welt stehn alle dinge in Relation.

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 2137

ニ於テ存立ス」ト書テ有ル実ニ簡潔明瞭ナ釈義デ有ル又古イ所デハヘラクリトノ残倫ノ中ニ「一切ハ一ヨリ来リ一ハ一切ヨリ来ル」ナド、言フ名言モ見ヘテ居ルプラトーノパルマニーデス」ノ中ニ名ヲソクラテストパルマニーデストノ問答ニ倣テ一ト多トノ関係ガ詳細ニ論シテ有ル又セクスタス、エムピリカスノ「ピーロン」的原理論ニモ懐疑ノ十問題中ノ第八項ニ一切相待論ガ有テ「一切ハ或ル他ノ者トノ関係ニ於テ表現ス」ナドト言フテ居ル近世ノ所デハ「ヘーゲ

Alles existirt im Verhaeltnis und dies Verhaeltnis ist das Wahrhafte jeder Existenz.

ルノ論理学ニハ「存立スル所ノ各事物ハ関係ニ於テ存立スル而シテ関係ハ各存立ノ真性ナリ」ト言テ居ル口ツチエモ其形而上学ニ於テ「有ルトハ関係シテ有ルナリ」ト言フテ居ル又ハルトマンノ範疇論ニハ「関係ノ原始的範疇」ト言フ一章カ有テ「関係ハ原始的範疇デ有テ他ノ各範疇ハ皆其殊別的分派デ有ル」ト言フテ居ルラツドノ実在哲学ニモ関係ト言フ一章カ見ヘテ居ルシカシナカラ甚ダ遺憾ニ思フノハ何レモ精細ニ関係自性ガ具有スル所ノ理法

Die Urkategorie der Relation

Alles erscheint in Bezug auf Etwas.

及ビ其表現スル所ノ契機ヲ研究シテ一ノ哲学
新系統ヲ組織スルマデニ至ラナンダ事デ有ル
又印度ノ仏教哲学デ因縁（causation）ト言フ
係哲学ニ言フ所ノ関係自性ト同シ意味デ有ル
ヤウニ解セラルヽガ何分ニモ宗教的ノ聖教量
ノ部分ガ餘リ多イノト各派間ノ争論ガ四分五
裂シテ甚タ煩鎖的デ有ルノトデ何ウモ一寸ト
其要点ヲ把捉スルガ困難デ有ル（authority）場合モ有ル斯
ウ言フ譯デ有ルカラ余ガ此関係哲学ヲ講述ス
ルノハ全ク東西古今諸家哲学中ノ高尚深遠ナ
ル元精ヲ抜粋シ来リテ之ヲ系統的ニ論列シテ
見タイト考ヘタ所カラ起ツタノデ有ル
ソコデ前章デモ一言シタ如ク苟シモ
覚語了若シクハ誤解ニ非ルヨリ以上ハ認識ノ
認識スル所ガ即チ実在デ有テ実在ノ実在スル
所ガ即チ認識デ有ルカント言フ所謂認識ス可テ
サル所ノ物其レ自身ヤラスペンセルノ所謂不
可知的ノ絶待ヤラハ哲学以外ノ詩的想像メル
ニ過キヌ恰カモ此一枚ノ紙ヲ裏カラ見テハ認
識ハ名ヅケ表カラ見テハ実在ト名ヅケタヤウ

ナ者デ表ヲ離レタ裏モ無レ
無イケレドモ表ハ則裏デ有
則裏デ有テ裏テハ無イ表ハ裏デハ無ク裏ハ表
テハ無イケレドモ表ヲ離レ
ヲ離レタ表モ無イ斯ウ言フ澤デ有ルカラ宇宙
上ニ於ル一切万有カ皆相待的ニ關係シテ存立
スル所ノ兩項中ノ一項トシテノミ存立スルノ
理ヲ説明スルニハ認識的方面ヨリモ実在的方面
ヨリモ合シテ一者ニ之ヲ説明レタ方ガ便利デ有
ルニ考ヘルカラ左様ニスル

東京築地製

凡ソ宇宙上ニ於ル一切万有ガ認識セラルヽ上
カラ言フテモ又其存立スル上カラ言フテモ之
カ為メニハ是非トモ二ツノ discrimination 力カ必要デ有ル第
一ニハ區別力第二ニハ相依 relativity 力デ有ル區別力ト
ハ一切万有中ノ此レト彼レトカ明瞭ニ區別セ
ラレテ居ツテ決シテ互ニ相混淆スルコヲ許サ
ヌ所ノ力デ有ル若シ此區別力ガ其力ヲ失テ此
レト彼レト混淆錯雑シタナラバ一切万有ハ決
シテ認識スルコモ又存立スルコモ出来ナクナリ
テ有ル又相依力トハ一切万有中ノ此レト彼レ

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）2137

トカ親密ニ相依レテ居ワテ決シテ互ニ相隔離
スルヿヲ許サヌ所ノ力デ有ル若シ此相依力ヵ
カヲ失フテ此レト彼レト隔離断絶レタナラハ
一切万有ハ又決シテ認識スルヿモ又存立スル
ヿモ出来ナイノデ有ル一ノ者トシテ認識セラ
レ又存立スルヲ得ルノハ一ノ者カ一切万有中ノ一ノ者ト区別力ノ効能ニ因テ
此一ノ者カ他ノ者ト明瞭ニ区別セラレテ決シ
テ他ノ者ト混淆錯雑セヌカラデ有ル手近ナル
例ヲ挙テ言ヘハ左ガ左トシテ、右ガ右トシテ又

原因ガ原因トシテ結果ガ結果トシテ認識セラ
レ又存立スルヲ得ルノハ左ハ右ト区別セラレ
テ決シテ右ト混淆錯雑セス右モ亦左ト区別セ
ラレテ決シテ左ト混淆錯雑セス原因ハ結果ト
区別セラレテ決シテ結果ト混淆錯雑セス結果
モ亦原因ト区別セラレテ決シテ原因ト混淆錯
雑セヌカラデ有ル若シ此区別力ヵ力ヲ失テ双
方カ混淆錯雑シタナラハ決シテ左ハ左トシテ
右ハ右トシテ原因ハ原因トシテ結果ハ結果ト
シテ認識スルヿモ存立スルヿモ出来ナイノデ

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）2137

有ルヽカヽレナカラ又他ノ一面カラ見ルト一切
ノ有中ノ一ノ者カ一ノ者トヽレテ認識セラレ又
存立スルヲ得ルノハ相依力ト
ノ者カ他ノ者ト親密ニ相依レテ況レテ他ノ者
ト隔離断絶セヌカラデ有ル前ニ挙タ例ニ就テ
言ヘハ左カ左トヽレテ右カ右トヽレテ原因カ原因
トヽレテ結果カ結果トヽレテ認識セラルヽノハ左
ニ就テハ右ヲ聯想シ右ニ就テハ左ヲ聯想シ原
因ニ就テハ結果ヲ聯想シ結果ニ就テハ原因ヲ
聯想スルカラデ有ル又左カ右トヽレテ右カ右ト

レテ原因カ原因トヽレテ結果カ結果トヽレテ存立
スルノハ左ハ右ト相依レ右ハ左ト相依レ原因
ハ結果ト相依レ結果ハ原因ト相依レテ互ニ隔
離断絶セヌカラデ有ル若シ此相依力カヽカヲ失
テ双方カ隔離断絶シメヌウテハ決シテ左ハ左ト
シテ右ハ右トヽレテ原因ハ原因トヽレテ結果ハ結
果トヽレテ認識スルヿモ又存立スルヿモ出来ヌ
イノデ有ル

以上ハ区別力ト相依力トノ効力ヲ明瞭ニスル
カ為メニ最モ手近ナル二ノ例ヲ挙テ之ヲ

東京 橋原製

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 2137

證明シタノデ有ルガ何モ左右トカ原因結果トカ言フ相待名辞ヲ持テ居ル所ノ概念ヤ事物ニ限ル譯デハ無イ凡ソ宇宙上ニ於ル一切万有中ノ一ト此一ニ非ル所ノ他ノ一切中ノ各一ト區別ノ關係モ亦全ク同シ道理デ凡ソ宇宙上ニ於ル一切万有中ノ一カ一トシテ認識セラレ又存立スルハ區別力及ビ相依力ノ効力ニ因テ此一ニ非ル所ノ他ノ一切中ノ各一ト區別シ相依シ即チ關係スルカラ一トシテ認識セラレ又一ト

東京帝國大學藏書

シテ存立スルコトガ出來ルノデ有ル尚ホ同時ニ此一ニ非ル所ノ一切中ノ各一ト其一トシテ認識セラレ又其一トシテ存立スルモ亦ヤハリ此二カノ効力ニ因テ此一ト區別シ相依シ即チ關係スルニ他ノ一切中ノ各一ト差別シ相依シ即チ關係スルカラ其一トシテ認識セラレ又其一トシテ存立スルコトガ出來ルノデ有ル

シテ見ルト宇宙上ニ於ル一切万有中ノ一ハ此一ニ非ル所ノ他ノ一切中ノ各一ト差別シ相依シ即チ關係スルニ非レハ此一ハ此一トシテ認

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）2137

成セラレ又此一ト一ヲ存立スルトガ出来又(ヌ)(ヌ)一ノ場合(ニ)ト同時ニ此一ニ非ル所ノ他ノ一切中ノ各一モ亦此一ト差別シ相待シ即チ関係スルニ非レハ其一トシテ認識セラレ又其一トシテ存立スルトガ出来又(ヌ)(ヌ)弥ニノ場合(ニ)第一ノ場合カラシテ言ヘハ此一ハ力用トシテハ此一ニ非ル所ノ他ノ一切中ノ各一ノ中ニ普遍的ニ把持包含セラレ体性トシテハ此一ニ非ル所ノ他ノ一切中ノ各一ト普遍的ニ融合一致セラレ又第二ノ場合カラシテ之ヲ言ヘハ此一ハ力用トシテ

此一ニ非ル所ノ他ノ一切中ノ各一ヲ自己中ニ把持包含シ体性トシテハ此一ニ非ル所ノ他ノ一切中ノ一ヲ自己ト融合一致セシムルノデ有ルカラ一面カラ見レハ此一ハ則常ニ一切ニ非スシテ一切ハ則常ニ一ニ非ス両項常ニ相違シテ存立シテ居ルガ他ノ一面カラ見レハ此一ハ則常ニ他ノ一切ニシテ他ノ一切ハ常ニ此一デ有テ両項常ニ相依シテ存立シテ居ルノデ有ル

備考　佛教中ノ華厳宗デ相入ト言フノハ此一ト此一ニ非ル所ノ他ノ一切中ノ各一

ト互ニ普遍的ニ把持包含スルノデ有テ相
即ト言フノハ此一ト此一ニ非ル所ノ他ノ
一切中ノ各一ト互ニ普遍的ニ融合一致ス
ルノデ有ル又異体門ト言フノハ則相依力ノ事デ
ノ事デ有テ同体門ト言フノハ則區別力
有ル
是カ則宇宙上ニ於ル一切万有ハ皆相待的ニ關
係シテ存立スル所ノ兩項中
存立スルト云フ所以ノ理デ
中ノ一カ一項トシテ存立ス
レハ此一ニ非ル所

東橋居製

ノ他ノ一切中ノ各一ハ合シテ此一ト相待的ニ
關係シテ存立スル所ノ一項トシテ存立ス
ルノデ有ルカラ凡ソ宇宙上ニ於ル一切万有中
一ノ者モ此關係ノ離レテ關係以外ニ孤存的立
スルノハ出来ナイノデ有ル
ソコデ尚念ノ為メニ一言ヲ附加フレハ以上ニ
言フタ所ハ普遍相待トモ言フ可キ者デ有ルカ
此外ニ又特別相待トモ言フ可キ者ガ有ル普遍
相待ト特別相待トノ區別ハ何處ニ在ルカト言
ヘハ特別相待デハ相待的ニ關係シテ存立スル

所ノ兩項ガ双方倶ニ之ヲ表示スル所ノ適當ナル相待名辞ヲ持テ居ル前ニ一例トシテ挙タ左右ノ如キ扉因結果ノ如キ又ハ第一章ニ言フタ主客ノ如キガ則其レデ有ル又普遍相待デハ兩項中ノ一項ハ之ヲ表示スル所ノ適當ナル名辞ヲ持テ居ルガ之ト相待スル所ノ他ノ一項カ特テ居ル所ノ名辞ノ上ニ非ト言フ一prefix接頭語ヲ加ヘテ此一項ニ非ル所ノ代表サセルノデ有ル即チ一塵一石一草若シクハ一木ニ非ル所ノ他ノ一切ヲ表示スル可キ適當ナル名辞カ無イカラシテ非塵トカ非木トカ言フ否定名辞ノ下ニ此一塵一石一草若シクハ一木ニ非ル所ノ他ノ一切ヲ包含セシメテ之ヲ表示スルニノデ有ル然レトナカラ是ハ全ク名称上ノ區別ノミデ有テ同ジ兩項デモ特別相待トモナリ普遍相待トモナルニツガ有ル

一例ノ挙クレハ心ト物トノ
有ルガ心ト非心トノ両項ハ特別相待デ
ト言フテモ非心ト言フテモ心ニ非ル所ノ他ノ
待デ有ル今故ニ此事ヲ並ニ一言スルハ宇
一切ノ包含表示スルノハ全ク同ジ事デ有ルケ
宙上ニ於ル一切万有ハ皆相待的ニ関係シテ存
レドモ名称上ノハ特別相待デ有テハ普遍相
立スル所ノ両項中ノ一項トシテ存立スル
ト言ヘハ或ハ之ヲ適當ナル相待名辞ヲ持テ居
ル所ノ概念ヤ事物ニノミ限ルヤウニ考ヘテ一

塵トカ一石トカ一木トカ言フ絶待名
辞ヲ持テ居ル所ノ概念ハ両項中ノ一項トシテ
存立スルヲ出来ヌカノヤウニ誤解スルヲガ
無イトモ言ヘヌカラ前ニ言フタ所ノ一切万有
中ノ一ト此一ニ非ル所ノ他ノ一切中ノ各一ト
ノ関係デ分リ切テ居ルケレド念ノ為メニ一言
附加ヘテ置クノデ有ル

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 2137

第四章　推論第二　相待的ニ關係シテ

存立スル所ノ兩項ノ實在ニ就テ

前章ニ於テ宇宙上ニ於ケル一切万有ハ皆相待的ニ關係シテ存立スルノ兩項中ノ一項トシテノミ存立スルヲ以テ此兩項ノ實在ハ何ヲ有ル乎ノ問題ヲ研究セサルヘカラス又即チ第一章ニ於テ概論シタル如ク兩項ノ實在ハ果シテ關係自性ニ有テ兩項ハ關係自性ノ現象ヲ有ルカ否カヲ本章ニ於テ證據立テ子

東京帝國大學藏書

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 2137

ハナラヌ又此研究ノ為メニハ関係自性ト両項ト
ノ関係（本林）ノ明ニシテ関係ノ本義ヲ定メルノガ必
要デ有テ是ガ明瞭ニ解釈セラルレバ関係自性
ハ両項ノ実在デ有テ両項ハ関係自性ノ現象デ
有ルト云フ丈ハ容易ニ了解セラルヽト考ヘル
世人往々関係自性（本ま）ト両項トノ関係ヲ誤解シテ
両項ガ先在的ニ共存並立シテ左ウシテ互ニ相
関係スルヤウニ考ヘテ居ルガ是ハ全ク間違テ
有ル手近キ一二ノ例ヲ挙テ言ヘバ左右ハ一ノ
関係デ有ル能認識ノ心ト所認識ノ物トモ一ノ
関係デ有ル左右若シクハ心ト物トカ先在的ニ
共存並立シテ左ウシテ互ニ相関係スル乎関係
有テ而シテ左右若シクハ心ト物トカ存立スル
乎ガ問題デ有ルガ言フマデモ無ク左ハ右ニ対
スルノ左右ハ左ニ対スルノ左デ有ル能認識ノ
心ハ所認識ノ物ニ対スルノ心所認識ノ物ハ能
認識ノ心ニ対スルノ物デ有ルカラ関係ガ無テ
レハ左モ左タル能ハス右モ右タル能ハス心モ
心タル能ハス物モ物タル能ハスデ有ル第一章
デモ稍ヤモ如ク心ダノ物ダノ言フテ裁然タ

東棒原裏

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）2137

ル二物カ有ルノデハ無イ只一ノ關係自性ヲ認
識スル認識セシメラルルト言フ方面カラ望メ
テ其認識スル所ノ作用ヲ物ト名ツケメマデノ事
ル、認識セシムルト言フ方面カラ望メテ其認
識セシムル所ノ作用ヲ物ト名ツケメマデノ事
デ有ル若シ能認識所認識ノ關係カ無ケレバ
ハ心ト名ツク可キ所ノ事実モ名称モ無イ是ハ少シク
名ツク可キ所ノ事実モ名称モ無イ是ハ少シク
平生常識上カラ考ヘテ居ル所ト異ルカラ了解
シ憎イカモ知レヌガ少シク心ヲ落ツケテ考ヘ

テ見ルト全ク左ノ（ト・ト）關係ト同シクデ有ルコトガ
證ルノデ有ル此點カラ言フト夫ノデカルトノ
有名ナル格言「我思考ス故ニ我存立ス」（何故ナレバ cogito ergo sum.）ノ如キハ
一ノ誤解デ有ル。デカルトガ我思考ス故ニ我存
立スト宣言シタ時ニ若シ人有リテ汝ハ何ヲ思
考スル乎ト問ハヽ、或ル事物ヲ思考スルト答フ
ルノ外ハ無イ若シ再ヒ汝ハ此思考セラルヽ所
ノ或事物無シニ思考シ得ル乎ト問ハヽ、能ハズ
ト答フルノ外ハ無イシテ見レハ我ガ絶待的ニ
存立シタデハ無クシテ思考スル所ノ我ト思考

東榛原製

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）2137

セラルヽ所ノ或ル事物トノ関係ガ存立シタノバカリデ有ル精密ノ語法ヲ以テ言ヘバ能思考トノ所思考ノ関係カ悟カニ存立シタノバカリデ有ル能思考ノ我ガ確実デ有ルカ所思考ノ非我カ確実デ有ルカノ問題トシテ依然トシテ遺リテ居ルノデ有ル心ト心附イタナラバ我ニ神ノ記念ガ有ルカラ神ガ有ルナト、滅法ナ事ヲ言ヒモ仕ナイデ有ラウト考ヘル

序ニ一言シテ置クノハ能思考所思考ト言ヒ又能認識所認識ト言フト一寸ト能思考能認識ハ発動的主体デ有テ所思考所認識ハ受動的客体ノヤウニ聞ヘルガ是ハ只語法ノ相違デ有ルカラ若シ語法ヲ換テ所思考能思考セラルヽト言ヒ能認識所認識セラルヽト言ヒ能思考能認識ノ方カラハ思考セラレタノバカリデ有ルト言ヘバ。能所主客ノ位置ガ顛倒スルカラ二者ハ畢竟主客双関能所互摂ノ関係デ有ルノデ有ル又

ニ云フニ注意セネバナラヌ

レテ見レバ関係ガ無ケレバ右モ無ケレバ左モ無ケレバ右モ無イ心モ無ケレバ物モ無イ関係有テ始メテ左

東京帝国大学蔵

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）2137

ト右又ハ心ト物トノ両項カ存立スル是マテ屬
相待的ニ関係シテ存立スルモノ、リヒエルノ言ヘリ
[illegible]

或ハ又言フ者カ有ルデ有ウ関係有レハ両項ガ
存立シ関係無ケレハ両項カ存立セヌト言フ

モ一ノ真理デハ有ルガ若シ語法ヲ顛倒シテ両
項ガ有レハ関係ガ存立シ両項ガ無ケレハ関係
カ存立セヌト言ハヽ是モ亦一ノ真理デハ無イ
乎ト言フ者カ有ルデ有ウ是ハ人ノ知ラヌ間ニ
論理ノ基礎ヲ一階止揚シテ瞞着シタ所ノ詭論
デ有ル何故ナレバ姑ニ言フタノハ左又ハ心ヲ
一項(甲)トシ右又ハ物ヲ他ノ一項(乙)トシテ此両
項ノ実在ハ則関係自性デ有テ其関係自性ノ現
象ハ則此両項デ有ルト云フヿヲ言フタノデ有
ル然ルニ今言フ所ハ関係自性即チ実在ヲ一項

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 2137

ト右又ハ心ト物トノ両項カ存立スル是マテ属
相待的ニ関係シテ存立スル所ノ両項ト言フヲ
ノハ則此理ヲ考ヘタカラテ有ル既ニ関係カ有
レハ両項倶ニ存立シ関係ガ無ケレハ両項倶ニ
存立セヌコトガ確実デ有ル以上ハ関係自性ハ両
項ノ実在デ有テ両項ハ関係自性ノ現象デ有ル
ト言フコトハ明瞭ニシテ疑フ可ラサル所ノ自證的
真理デ有ルニ言ハヽ又語ヲ換ヘテ言ヘ
ハ宇宙上ニ於ル無限無量ノ両項即チ一切万有
ハ則此宇宙ノ実在トシテ此宇宙ニ普遍シ此宇
宙一切ノ存立ハ不存立ノ差別無差別ノ統化スル所
ノ関係自性ガ表現スル所ノ現象タルニ過キサ
ルノ理断々乎トシテ疑フ容ル可キノ餘地無シ
ト言ハヽハ十ラ又

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 2137

(丙)トレ左右又ハ心ト物ト云フ両項即チ現象ヲ
他ノ一項(丁)トレテ此新両項(丙丁)カ相待的ニ関
係シテ存立スルヿヲ言フテ居ルノデ有ルカラ
シテ相待的ニ関係シテ存立スル所ノ新両項ニ
対シテ実在ガ有ル現象ガ有ル現象カラ
カウ実在ガ有ルト言フヿガ出来ルノデ有ル論
理ノ基礎ハ幾回之ヲ止揚シテモ両項ノ実在カ
関係自性デ有ルト云フ定説ハ確然トシテ動カ
又即チ此実在ト現象トノ新両項(丙丁)ノ実在ハ
則チヤハリ関係自性デ有ル実在ニ現象トノ新両

項(丙丁)ハ則チヤハリ関係自性ノ現象デ有ルノデ
有ル
又ニ非ズ自ラ物ニ非ズ自ラ関係ト物トニ非ズ自ラ関係ト物トニ非ズ
ト云フ事ハ既ニ第一章ニ於テ一カノ実在ハ
自ラ関係ト物トニ非ズ自ラ関係ト物トニ非ズ
ト云フ事ハ既ニ第一章ニ於テ一カノ実在ハ
新説ハ自ラ関係ト物トニ非ズ自ラ関係ト物トニ非ズ
旧説ハ関係ニ実在ノ有ルヿヲ認メテ居ルケレドモ
其実在ハ物ニ有ルノデ有ルカ関係ニ有ルノデ有ルカ
ト云フ点ニ於テ明ニ区別ヲ立テテ居ラヌ
落花ハ自ラ関係ト物トニ非ズ自ラ関係ト物トニ非ズ

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 2137

項(丙丁)ハ則ヤハリ関係自性ノ現象デ有ル

以上ニ研究シタ所デ第一章ニ於テ一切ノ実在ハ仍デ有ル辛ノ疑問ニ対シテ「関係ノ外ニ物無シ一切ハ関係ナリ」ト言フタノモ一切ハ関係ニ非ス在ハ相待的ニ関係シテ存立スル所ノ両項ニ非スシテ関係自性ナリ」ト言フタノモ「一切ハ相待的デ有ル」「一切ハ相待的デ有ル」ト言フタノモ一切ハ関係シツヽ有ル」ト言フタノデ元ヨリ其明瞭ナル自證的真理デ有ルコトガ證拠立テラレタト考ヘル

備考　古懐疑論者ノ基礎ナル「イロー」ハ其懐疑十大問題中ノ第八ニ於テ一切ハ互相間ノ関係ノ表現スルニ過キサルヲ以テ懐疑ノ理由ト為シ「カント」ハ卓絶感性論中ニ於テ感性ノ直覚スル所ハ主観ノ客観ニ過キサルヲ以テ関係タル物其レ自身ニ非サルヲ断定シタ二氏ノ如キハ事物ノ認識上又存立上ニ於テ関係ガ最モ重要ナル効力ヲ有スルコトヲ考ヘツヽ関係以外ニ物其レ自身ガ有ルデ有ラウト妄想シテ関係自性ノ理法及ヒ契拠ヲ研究セナンダノハ誠ニ惜ム可キコトデ有ル

又即チ此実在ト現象トノ新両項(丙丁)ノ実在ハ則ヤハリ関係自性デ有テ実在ニ現象トノ新両

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 2137

然レトナカラ以上ニ研究シタ所ハ言ハバ所謂歸
納法ノ類デ有テ一切万有ヲ以テ起発點トシテ
向上的ニ歸納シ去テ前章デハ一切万有存立ノ
カヲ區別カト相待カトノ二カノ上ニ置キテ之ヲ
研究シテ一切万有ヲ相待的ニ關係シテ存立ス
ル所ノ兩項ニ歸納シ本章デハ此相待的ニ關係
シテ存立スル所ノ兩項ト其兩項ヲ保有スル所
ノ關係自性トノ何レガ先在的デ有ルヤヲ研究
シテ兩項ノ実在ヲ關係自性ニ歸納シタノデ有
ル所謂演繹法トモ言フ
東棒原製

可キ方法ニ據テ關係自性ヲ以テ起発點トシテ
向下的ニ演繹シ来レハ關係シテ是非トモ相待的ニ關係
テ是非トモ相待的ニ關係
項ヲ保有セヌバナラヌ又演繹テ有ル何故ナレハ既
ニ關係デ有リナカラ兩項ヲ保有セヌナラハ是
混然タル一デ有ル若シ混然タル一デ有ルナ
ラハ何ウシテモ互相ニ關係ス可キヤウカ無イ
カラシテ關係デ無イニ言フ
已ニ關係テ有レハ是非トモ自己中ニ兩項ヲ保
有セヌハナラヌノデ有ル而シテ又兩項ハ是非

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）2137

トモ相待的ニ関係シテ存立セサルハナシ又澤カ有ル何故ナレハ若シ両項カ相待的ニ関係シテ存立セスハナラハ是我然タルニ二テ有ルナラハ何ウシテモ互相ニ関係スルノカ出来スカラシテ又関係デハ無イト言フノニナルシカレテ有ルカラシテ関係自性ハ是非トモ両項ヲ保有シ両項ハ是非トモ其レヲ保有スル所ノ関係自性ノ必然トシテ相待的ニ関係シテ存立セサルハナラス又道理デ有ル斯ウ云フ澤デ有ルカラシテ向上的ニ歸納シ去テ見テモ

東京帝国大学蔵書

向下的ニ演繹シ来テ見テモ関係自性ハ是非トモ両項ヲ保有シ両項ハ是非トモ相待的ニ関係シテ存立スルト云フノハ既ニ関係ト云フ一語中ニ含マレテ居ルノデ有ル又余カ関係自性ハ一切万有ノ実在テ有ルト断定シタニ就テ疑問ヲ発シタ者カ有ルシカレハ関係ハ一ノ範疇タルニ過キナイト言ハヽ死物デ有ル其死物ヲシテ一切万有ト言フ大現象ヲ表現(其理法ノ動力ノ姿形ノ其実態ノ表現ヲ変転ニ)シテ。之ヲシテ活動セシムル所ノ発動者従テ所有意識的動機ニ起ハ誰テ有ルカ主宰的精神ノ存

ル手將ヲ客觀的自然ノ無意識的作用ニ委スル
手ト言フ疑問ヲ發シタル者ガ有ル是ハ畢竟名稱
ト實物トノ區別ヲ知ラナイ處カラ起ル所ノ疑
問デ有ル關係自性ノ何タルカヲ知ラナイ處カラ
起ル所ノ疑團デ有ル何故ナレハ何樣關係ト言
フ名稱ハ一ノ名詞デ有テ一ノ範疇デ有ルニ相
違無イガ余ハ此名詞即チ範疇ガ却チ宇宙ノ
實在デ有ルト言フノデハ無イ一切万有ノ實在
ヲ表示スルニハ此關係ト言フ一ノ名詞一ノ範
疇ガ一番了解シ易クシテ何處ニモ撞着スル所

カ無イカラ此名詞此範疇ヲ用ヰタト言フニ過
キナイノデ有ル又關係自性ノ發動者統一看ハ
一面カラシテ言ヘハ主觀的精神ノ有意識的動
機デモ無イ又客觀的自然ノ無意識的作用デモ
無イ全ク關係自性其レ自身ノ發動デ有ル何故
ナレハ主觀的精神ガ客觀的自然ダノト言フ
者ハヤハリ相待的ニ關係シテ存立スル所ノ兩
項中ノ一項デ有ルカラ決シテ關係自性全面ノ
發動者タリ統紀者タル可キ資格ハ無イノデ有
ル

東京帝國大學圖書之印

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）2137

偏芳ヘーゲルハ宇宙ヲ關係ノ網ヲ有ル
ト見テ其關係ハ思考カラ案タノデ有ルト
考ヘ英國新カント派ノ代グリーンモ一切ハ
關係デ有ルガ關係ヲ統一スルハ則主觀
的精神デ有ルト云フヤウニ考ヘタ其レデ
有ルカラ二人倶ニ其哲學全系統ハ皆觀念
的唯心的ノ一方ニ偏僻シタノデ有ル

併シカう又他ノ方面カラ言ヘバ主觀的精神モ
客觀的自然モ皆關係自性ガ保有スル所ノ兩項
中ノ一項デ有ルカラシテ關係自性ハ或ハ主觀
的精神ノ動機トシテ或ハ客觀的自然ノ作用ト
シテ自由自在ニ自ラ發動スルガ出來ル第一
ノ場合デハ「有ル」ト考ヘル」ノデ有テ第二ノ場合
デハ「考ヘラレテ有ル」ノデ有ルガ兩者共ニ
テモ全ク同シ關係自性ノ發動デ有ル畢竟今茲
ニ吾人カ宇宙ノ實在ヲ研究シヤウトスルニ
吾人ノ主觀的精神ハ一切万有中ノ一トシテ他
ノ一切中ノ各一ト相待的ニ關係シテ存立スル
所ノ兩項中ノ一項トシテ關係自性ノ爲メニ保
有セラレテ居ルノデ有ルカラ關係自性ノ發動

的精神ノ動機トシテ或ハ客觀的自然ノ作用ト
シテ自由自在ニ自ラ發動スルガ出來ル第一
ノ場合デハ「有ル」ト考ヘル」ノデ有テ第二ノ場合
デハ「考ヘラレテ有ル」ノデ有ルガ兩者共ニ
テモ全ク同シ關係自性ノ發動デ有ル畢竟今茲
ニ吾人カ宇宙ノ實在ヲ研究シヤウトスルニ
吾人ノ主觀的精神ハ一切万有中ノ一トシテ他
ノ一切中ノ各一ト相待的ニ關係シテ存立スル
所ノ兩項中ノ一項トシテ關係自性ノ爲メニ保
有セラレテ居ルノデ有ルカラ關係自性ノ發動

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 2137

トシテ性カニ「有ル」ト「所ノ能力ヲ持テ居心ヲ自ラ確信シテ居ルカラデ有ル

以上ハ概括シテ開係自性ト相待的ニ開係シテ存立スル所ノ兩項即チ一切万有ト「ノ開係ヲ論ジタガ凡ソ宇宙上ニ於ル一切万有カ存立シテ居ルニハ必ス其存立スル所以ノ理由ガ無クテハナラヌ又其理由ヲ「ライブニッツ以来充足的理由律ト名ヅケテ居ル次章以下デハ以上ニ研究シタ所ノ概括ノ論旨ヲ推擴シテ今一層分析的ニ兩項即チ一切万有ノ充足的理由律ヲ研究シ又

此理法ノ効力ニ因テ開係自性カ表現スル所ノ契機即チ一切万有ノ可成的要素ヲ推論断定シテ左ウシテ其レヲ第一章ニ言フタ所ノ人類ノ智的要求ヲ充タス可キ所ノ形而上学情的要求ヲ充タス可キ所ノ宗教哲学及ラ人類ノ意的要求ヲ充タス可キ所ノ倫理哲学ニ應用シ尚此理法及ニ契機ニ基ツキテ哲学上ニ於ル種々ノ概念ヲモ解釈シテ讀者ガ此開係哲学ノ綱要ヲ充分ニ了解スル為メノ便宜ニ供シヤウト考ヘル。

第五章　推論第三　相待的ニ關係シテ
存立スル所ノ兩項存立ノ四種（ロトニテノ四種理）
完足的（原）理法ニ就テ

本章ニ於テハ關係自性ニ保有セラレテ相待的ニ關係シテ存立スル所ノ兩項即チ一切万有ハ如何ナル完足的理法ノ効力ニ因テ存立シ其存立ハ如何ナル理法ノ効力ニ因テ隠没セラレ若シクハ表顯セラレ若シクハ分割セラレ若シクハ總合セラルヽ手關係自性ハ是等ノ為メニ如何ナル完足的理法ヲ具有スルヤヲ研究スル

東京帝國大學圖書

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）2137

余ノ研究シタル所ニ於テハ其ノ充足理由トシテ具有スル所ノ必然ノ関係ニ於テ四種ニ有ル之ヲ減シテ三ト為セハ不足ト之ヲ益シテ五ト為セハ剰余ニ於テ

第一ニハ The Law of existing by the other. 依他的存立理法

第二ニハ The Law of existing by itself. 依自的存立理法

第三ニハ The Law of existing oppositely each other. 相違的存立理法

第四ニハ The Laws of existing dependently each other 相待的存立理法

カ其レデ有ル是ヨリシテ各充足的理法ノ効力ニ成リタケ簡単ニ説明スル

第一 依他的存立理法

第一理法即チ依他的存立理法トハ一項カ一項トシテ一事物カ一事物トシテ存立スル所ノ他項他ノ事物ノカニ因テ存立スルノ理法ヲ言フノデ有ル第三章ニ言フタ所ノ一切中ノ一ガ此一ニ非ル所ノ他ノ一切中ノ各一ノ中ニ自己ヲ把持包含セラレ之ト融合一致セラルヽト言フタノハ全ク此第一理法ノ効力ニ因ルノデ有ル

一例ヲ挙テ言ヘハ左ノ左トシテ存立スルノハ

全ク右ノ力ニ依ルノミニテ有ル左ハ右ニ對スルノ左デ有ルカラシテ若シ右ガ力ヲ与ヘテ之ト相待セザレハ左ハ左トシテ存立スルヿハ出来又右ノ方カラ言フテモ亦同シク右ハ全ク能認識ノ心ノ力ニ依ルノデ有ルト雖モ尚他ノ例ヲ挙テ言ヘバ所認識ノ物ガ能認識ノ心ノ力ヲ与ヘスレテ之ヲ認識シ若シ能認識ノ心カ力ヲ与ヘテ所認識ノ物トシテ存立スルヿハ出来又（能認識ノ心ノ方カラ言フテモ同シ事デ有ル）

總テ此第一理法ノ効力ニ因テ存立スル所ノ各項（各事物）ハ其存立ノ効力ヲ他項（他ノ事物）ニ譲リ自己ハ他項ノ中ニ把持包含セラレ又他項（他ノ事物）ト融合一致セラレテ自己ヲ隠没シ自己ニ否定スルニ其レテ有ルカラシテ「無イ」トカ「ノー」negative トカ云フ一切ノ否定的断定ハ皆此第一理法ノ効力ニ因テ起ル所ノ結論デ有ル

第二　依自的存立理法

第二理法即チ依自的存立理法ニハ一項ノ一項

トシテ（一事物ノ一事物トシテ）存立スルノハ全ク自項（自己）ノ効力ニ因テ存立スル所ノ理法ヲ言フノデ有ル第三章ニ言フタ所ノ一切中ノ一ガ此一ニ非ル所ノ他ノ一切中ノ各一シ自己ニ把持包含シ自己ト融合一致セシメルト言フタノハ全ク此第二理法ノ効力ニ因ルノデ有ル

又一例ヲ挙テ言ヘハ左ノ左トシテ存立スルノハ全ク左其レ自身ノ力ニ依ルノデ有ル左ハ右ニ對スル心ノ左デ有ルカラ左ノ左トシ存立スルニハ右ノ力ニ依ルケレトモ其右モ亦左ニ待スル

ノ右デ有テ其存立ハ左ノ力ニ依ルノデ有ル若シ左ガ其力ヲ失ヘナカツタナラハ右ハ右トシテ存立スルコトカ出来ヌノミナラス其力ヲ左ニ与ヘテ左ヲシテ左トシテ存立セシムルコトモ出来ナイカラ結局左ガ左トシテ存立スルノハ左其レ自身ノ力ニ依ルノデ有ル（右ノ方カラ言フテモ同ジコトデ有ル）尚他ノ例ニ就テ言ヘハ所認（ノ物）ノ物カ所認識ノ物トシテ存立スルノハ所認識其レ自身ノ力ニ依ルノデ有ル所認識ハ能認識ニ對スルノ所認ニテ有ルカラシテ物ガ物ト

東博原寫

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）2137

シテ存立スルハ心ノ力ニ依ルケレトモ其心モ
亦物ヲ認識スルニカ為メニ存立スル所ノ心デ有
テ其存立ハ物ノ力ニ依ルノデ有ルカラ若シ物
ガ其存立ノ力ヲ与ヘズシテ認識セシメナカウ
タナラバ心ハ心トシテ存立スルコトガ出来ヌノ
ミナラス其力ヲ物ニ与ヘテ物ヲシテ物トシテ
存立セシムルコトモ出来ナイカラ結局所認識ノ
物ガ物トシテ存立スルノハ物其レ自身ノ力ニ依
ルノデ有ル（能認識ノ心ノ方カラ言フテモ同シ
コトデ有ル）

總テ此第二理法ノ効力ニ依テ存立スル所ノ各
項（各事物）ハ其存立ノ効力ヲ自項（自己）ニ收メ自
己中ニ他項（他ノ事物）ヲ把持包含シ又自己ト融
合セシメテ自己ノ表顯シ自己ノ肯定スル其シ
テ有ルカラシテ「有ル」トカ「イロス」トカ云フ一切
ノ肯定的（affirmative）断定ハ皆此第二理法ノ効力ニ因テ起
ル所ノ結論デ有ル

第三　相違的存立理法

第三理法即チ相違的存立理法トハ一項ノ一項
トシテ（一事物ノ一事物トシテ）存立スルハ全ク

他項（他ノ事物）ト相違スルニ因テ存立スル所ノ理法ヲ言フノデ有ル第三章ニ言フタ所ノ區別カト云フノハヤハリ此第三理法ノ効力デ有ル若シ一項カ他項ト相違相反セスシテ之ト混雑シタナラハ此一項ハ決シテ一項トシテ存立スルヿハ出来ヌヿハ第三章ニ於テ區別力ノ下ニ説明シタ如クデ有ル畢竟一項カ一項トシテ存立スルノハ全ク他項ト相違相反シテ決シテ他項テ無イカラテ有ル第三章ニ言フタ所ノ一切中ノ一カ常ニ一切ニ非スシテ互ニ相違シテ存立スルトヽ云フタノハ全ク此第三理法ノ効ニ因テ存立スル所ノ又一例ヲ挙テ言ヘハ左ノ左ト相違相反シテ全ク右デ無イカラデ有ル若シ左カ右ト相違相反セスシテ之ニ混雑シタナラハ左ハ決シテ左トシテ存立スルヿハ出来ヌ（右ノ方カラ言フテモ同シヿデ有ル）尚他ノ一例ニ就テ言ヘハ所認識ノ物カ物トシテ存立スルノハ其全ク能認識ノ心ト相違相反シテ其全ク能認識ノ心デ無イカラデ有ル若シ

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）2137

所認識ノ物カ能認識ノ心ト相違
之ト混淆錯雑シタナラハ物ハ決シテ物トシテ
存立スルコトハ出来ヌノデ有ル【能認識ノ心ノ方
カラ言フテモ同シコトデ有ル】
總テ此第三理法ノ効力ニ因テ存立スル所ノ各
項【各事物】ハ必ス自他ノ限界ヲ明ニシテ他項【他
事物】ト少シモ混淆錯雑スルコトナク【異テ居ル】
カノ持テ居ルカラ【異テ居ル】ト
イフカ言フ一切ノ反對的断定ハ皆此第三理法
antithetic
ノ効力カラ起ル所ノ結論デ有ル

第四　相依的存立理法

第四理法即チ相依的存立理法トハ一項ノ一項
トシテ（一事物ノ一事物トシテ）存立スル全ク他
項【他ノ事物】ト相依相資スルニ因テ存立スル所
ノ理法ヲ言フノデ有ル第三章ニ言フタ所ノ相
依カト言フノハヤハリ此第四理法ノ効力デ有
ル若シ一項カ他項ト少シモ相依相資セスシテ
全ク之ト隔離断絶シタナラ
一項トシテ存立スルコトハ出来ヌコトハ第三章ニ
於テ相依カノ下ニ説明シタ如クデ有ル畢竟一

東京帝國大學

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）2137

項カ一項トシテ存立スルノ
資シテ互ニ具存立ノ助ケ合フカラデ有ル第三
章ニ言ツタ所ノ一切中ノ一カ常ニ一デ有テ互ニ相依シテ存立スルト云フ
ノハ全ク此第四理法ノ効力ニ因ルノデ有ル
又一例ヲ挙テ言ヘハ左ノ左ハ全ク他ト相依相
有ル若シ左カ右ト相依相資シテ右ト聯絡スルカラテ
シタトテハ左ハ決シテ左トシテ存立スルノ
出来ヌ右ノ方カラ言フテモ同シ
ノ一例ニ就テ言ヘハ所認識ノ物カ物トシテ存
立スルノハ其能認識ノ心ト相依相資シテ認識
セラルヽカラデ有ル若シ所認識ノ物カ能認識
ノ心ト相依相資セスシテ之ト隔離断絶シタ
ラハ物ハ決シテ物トシテ存立スルコトハ出来ヌ
ノデ有ル能認識ノ心ノ方カラ言フテモ同シコト
デ有ル
総テ此第四理法ノ効力ニ因テ存立スル所ノ各
項各事物ハ必ス他項他ノ事物ト調和協同シテ
決シテ隔離断絶セヌ所ノ能力ヲ持テ居ルカラ

東京製

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 2137

「同レデ有ル」トカ「冥テ居ウヌ又」トカ言フ一切ノ總
synthetic
合的断定ハ皆此第四理法ノ効力カラ起ル所ノ
結論（果）デ有ル

備考　此四種充足的理法ハ吾人ノ眼前ニ
現在スル所ノ兩項即チ一切万有存立ノ理
法トシテ説明シタノデ有ルケレトモ吾人
ノ眼前ニ現在スル所ノ兩項即チ一切万有
ヲ結果ト見レハ此結果ヲ生スル所ノ原因
カ有ル其直接ノ諸原因ノ上ニモ
此四種充足的理法ハ常ニ其効力ヲ表ハシ

ツヽ有ルノデ有ルカラ原因ト結果ノ關係
カラ言ヘハ既ニ原因ノ上ニ四種充足的理
法カ効力ヲ表ハシツヽ居ツタカラ其結果
ノ上デモ其存立ノ充足的理法ト（原）ナルノデ
有ルト云フコトニナル例数中ノ華嚴派（涼）ニテ
緣起因門ニ種法ト云フ理法デ有ル空有ノ義ト云
フノハ則依他的存立理法（因無力待緣）ト依
相由ノ義ト云フノハ即チ原因上ノ
自的存立理法（因有力不待緣）ニ當リ相由不

依的存立理法（因有力待緣）ニ當ル華嚴（宗）ニテ
ハ原因ノ上ニテハ空有ノ義及ビ力無力ノ義
ト云フタノヲ結果ノ上ニテハ相即門及ビ相
入門ト云ヒ原因ノ上ニテハ相由不相由ノ義
ト云フタノヲ結果ノ上ニテハ同体門及ビ異
体門ト言テ別々ノ名ヲ下シテ居ルガ理法
トシテハ全ク同シ者ニテ有ル
尚此四種完足的理法ニ就テ一言附加ヘテ置ク
ノハ肯定的断定否定的断定及ビ総
合的断定ノ表示スル所ノ有、無、一、異、四句ハ哲

学上及ビ各科学上ニ於ル一切ノ道理ヲ推論ス
ルノ最終的断定ノ要素ニテ有ルノニテ有ルカ否理
法ノ下ニ説明シタ如ク全ク此四種完足的理法
ノ効力カラ起ル所ノ結論（果）ニテ有ル元来関係自性
ハ有ニテモ無ク無ニテモ無ク一ニテモ異ニテモ
無ク唯関係ニテ有テトテモ其実有スル所（雨頂存之）ノ
的理法ノ効力トシテハ有ヲ表シ無ヲ表シ一ヲ
表シ又異ヲ表スルノニテ有ルカラ若シ第一完足
的理法効力ノ何タルヲ知ラスシテ無ト言フ者
ハ是定無ニ非ル所ノ無ヲ以テ定無ト為スカラ

シテ之ヲ關係自性ニ對スル妄損減ノ過失ト言
フ若シ第二元是的理法効力ノ何メルヲ知ラス
シテ有ト言フ者ハ是定有ニ非ル所ノ有ヲ以テ
定有ト為スカラシテ之ヲ關係自性ニ對スル妄
增加ノ過失ト言フ又第三元定
自性ニ對スル妄混同ノ過失ト言フ者ハ是定異ニ非ル所ノ異ヲ以テ定異ト為スカラ
シテ之ヲ關係自性ニ對スル妄分裂ノ過失ト言
フ東西古今ノ哲學上又ハ宗教上ノ原理トシテ
此妄增加妄損減妄混同及ビ妄分裂ノ四過失中
ノ一過失ヲモ犯サス者ガ幾多有ルデ有ラウカ
ハ一ツノ問題デ有ル

備考　易ノ大傳ニ曰ク一陰一陽之謂道陰

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 2137

レテ之ヲ關係自性ニ對スル false separating
ヲ若シ第二元是的理法効力
レテ有ト言フ者ハ是定有ニ非
定有ヲ為スカラシテ之ヲ關係
何タルヲ知ラスシテ一ト言
ル所ノ一ヲ以テ定一ニ為スカラシテ之ヲ關係
自性ニ對スル false mixture 妄混同ノ過失
的理法効力ノ何タルヲ知ラス
ハ是定異ニ非ル所ノ有ヲ以テ
定異ヲ為スカラ

false increasing
增加ノ過失ト言フ者ハ是定一ニ非
元是的理法効力ノ
false decreasing
妄損減ノ過失ト言
東條周藏

レテ之ヲ關係自性ニ對スル false separating 妄分裂ノ過失ト言
ヲ東西古今ノ諸学上又ハ宗教上ノ原理トシテ
此妄增加妄損減妄混同及ニ妄分裂ノ四過失中
ノ一過失ヲモ犯サヌ者ガ幾多有ルデ有ラウカ
ハ一ツノ問題デ有ル

備考 易ノ大傳ニ曰ク一陰一陽之謂道陰陽
不測之謂神ト老子曰ク道可道非常道名可名非常名又曰ク有無相生難易相成長短相形
高下相傾音声相和前後相隨ト莊子曰ク彼出於是是亦因彼又曰ク是亦彼也彼亦是也宗
朝ノ儒者程明道曰ク天地万物之理無獨必有對自然而非有安排也ト是等ノ人々ハ悦
惚トシテ此四種理法ノ論倪ヲ見メノデ有
ラウト考ヘル

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 2137

シテ之ヲ関係自性ニ対スル false decreasing
ヲ若シ第二元亟的理法効力ノ何タルヲ知ラス
シテ有ト言フ者ハ是定有ニ非ル所ノ有ヲ以テ
定有ニ為スカラシテ之ヲ関係自性ニ対スル false increasing
増加ノ過失ト言フ若シ第四元亟的理法効力ノ
何タルヲ知ラスシテ一ト言フ者ハ是定一ニ非
ル所ノ一ヲ以テ定一ニ為スカラシテ之ヲ関係
自性ニ対スル false mixture 妄混同ノ過失ト言フ又第三元亟

終ニ臨ムテ余ハ本章ニ於テ説明シタル所ノ四種
元亟的理法ト次章ニ於テ説明スル所ノ四種契
機トノ混淆ヲ避クル為メニ讀者ニ向テ一言シ
テ置ク本章ニ於テ説明シタル所ノ四種元亟的理
法ハ各項存立ノ原因ヲ有テ次章ニ於テ説明ス

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 2137

ル所ノ四種契機ハ此四種
因テ一切万有ノ表現スル所ノ結果ニ有ル語ヲ
換ヘテ言ヘハ四種充足的理法ノ効力ニ
理由ノ効力ヲ示シタル者デ四種契機ハ此効力ノ
後件トシテ両項カ相合シテ表現シ得可キ所ノ
可成的要素ヲ示シタル者デ有ルカラ決シテ四種
充足的理法ト四種契機トヲ混淆シテハナラヌ又

第六章　推論第四

四種充足的理法ノ効力トシテ開係自性ガ表現スル所ノ四種契機ニ就テ

応用第一

学ニ於ル応用ニ就テ

前章ニ於テ説明シタル所ノ四種充足的理法ノ効力トシテ開係自性ハ四種契機ヲ表現スル即チ

第一ニハ　肯自否他的契機

The momentum of affirming itself and denying the other

第二ニハ　否自肯他的契機

The momentum of denying itself and affirming the other

第三ニハ　自他俱肯的契機

The momentum of affirming both.

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 2137

第四ニハ自他俱否的契撥
ガ其レデ有ル是モ亦開係自性ガ保有スル所ノ
兩項ガ相違的ニ若シクハ相待的ニ至ニ肯定シ
互ニ否定スル所ノ必然ノ結果トシテ起ルノデ
有テ之ヲ減シテ三トスレハ不足シ之ヲ增シテ
四トスレハ剩餘ニナル
備考第一　佛教中ノ天台派デハ一切万有
ノ真性トシテ三諦ヲ立テ居ルガ有諦ハ則
第一ナル肯自否他的契撥ニ当リ空諦ハ則
第二ナル否自肯他的契撥ニ当リ中諦ト言
フノハ第三ナル自他俱肯的契撥ト第四ナ
ル自他俱否的契撥ヲ混淆シテ居ルカラシ
テ或ハ之ヲ區別スル為メニ自他俱肯的契
撥ニ当ル可キノヲハ雙損中諦ト名ケ自
他俱否的契撥ニ当ル可キノヲハ四妙中諦
ト名ケタルモ有ル又其他ニ天台派デハ有
門空門亦有亦空門及ヒ非有非空門ト云フ
四門ヲ立テ居ルガ是ハ全ク此四種契撥ト
吻合シテ居ル有門則第一ナル肯自否他的
契撥空門ハ則第二ナル否自肯他的契撥亦

The momentum of denying both.
東橋原撮

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 2137

有形空間ハ則第三ナル自他倶肯的契撥非
有非空間ハ則第四ナル自他倶否的契撥ニ
當ル又コレヒテニ起ツテヘーゲルニ至テ完
成シタ所ノ三斷論法デ正斷ト言フノハ第
一ナル肯自否他的契撥ニ當リ反斷ト言フ
ハ第二ナル否自肯他的契撥ト第三ナル
自他倶肯的契撥トノ混雜シ合斷ト言フノ
ガ第四ナル自他倶否的契撥ニ當ル
備考第二前章ノ末ニ一言シタ所ノ有無
一異ノ四句ハ四種竟足的理法ノ効力ニ因

テ起ル所ノ結果テ有ル
撥トモ適合シテ居ル即
無ハ則第二契撥一ハ則第四契撥異ハ則第
三契撥ニ當ルノデ有ル
此四種契撥ノ説明スルニハ
四種竟足的理法ノ効力ニ因テ之ノ表現スルノ
理由ヲ解釈スルニ止メテ成ル可ク哲学上及ビ
各科学上ノ事実問題ニ渉ラヌコトヽシヤウト考
ヘテ居タノデ有ルガ讀者ノ了解ヲ容易ニスル
為メニハ是非トモ或ル例ヲ擧ケテ之ヲ説明ス

東橫原製

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 2137

ルノ必要ガ有ルカラ前章ノ例ニ倣ヒ所認識ノ
物ト能認識ノ心トヲ挙ゲテ
タ所デ考ヘテ見ルト心ト物
ノ両極トモ云フ可キ者デ有
上学全面ニ渉ル可キ大問題デ有ルノデ例證ト
シテ挙ル所ハ直チニ形而上学ニ於ル応用トナ
ルコトヲ為リヤウニ為ツテ来
別シテ説明スルノハ回ヨリ
ニハ推論シ一面ニハ応用シ
モ亦大ニ読者ノ了解ヲ容易
ル心ノ便宜ガ有

ルト考ヘタカラ本章デハイ
則ヲ設ケテ本章ニ於テハ一
現ノ理由ヲ説明シ一面ニハ
ニ之ヲ形而上学ニ応用スル
第一　肯自否他的契機
第一契機即チ肯自否他的契機トハ相待的ニ関
係シテ存立スル所ノ両項中ニ他項ヲ保持包含
的理法ノ効力ニ因テ自己中
シ自己ト融合一致セシメテ自体
ヲ表顕スルト倶ニ他ノ一項
ハ第一ニ是迄ノ理法

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）2137

ノ効力ニ因テ他項中ニ保持包含セラレ他項ト融合一致セラレテ其自体ノ否定シ自体ノ隠没スル所ノ契機ノ言フノデ有ル尚之ヲ説明スルノ例證トシテ之ヲ形而上学ニ應用スル前ニ一言シテ置カネバナラヌ事ガアル形而上学ハ宇宙上ニ於ル一切万有ノ実在ヲ研究スルノ学デ有ルガ一切万有ハ此ノ如ク多種多様デ有ルケレドモ之ヲ行人ニモ了解シ得ラル可キ所ノ兩項ニ還元スルノガ出来ル即チ認識シ認識セラルヽ所ノ心ト認識セシメ

認識セラルヽ所ノ物トノ兩項ニ還元スルノカ出来ルソコデ此心ト物トノ中デ一ノ者ガ実在デ有テ他ノ者ハ現象デ有ルノ乎二ツノ者デ有ル乎ノ疑問ニ就テ形而上学ノ解答ハ東西古今ヲ貫ク万別種々様々デ有ルケレドモ之ヲ大別スレハ四種四様ノ根本的立脚地ノ上ニ基礎ヲ定メテ居ラヌ者ハ無イノデ有ル其四種四様ノ根本的立脚地ト云フハ即チ唯心論唯物論二元論及ビ不可思議的一元論デ有テ東西古今ノ実在論即チ形而上

idealism realism dualism agnostical monism

学ノ問題ハ種々様々ニ名ヲ換ヘ姿ヲ代ヘテ同
一ナル環線上ノ同一ナル此四ツノ點ノ上ヲ
心リ々々ト循環去来シテ居テ甲ノ主張スル
所ハ乙ノ排撃スル所ト為リ而ガ甲乙ノ間ヲ調
和協定スレハ丁ハ又之ニ反對スルト云フ有様
ニ為ツテ居ルヘーゲルノ哲学史ヤ其哲学系統
ノ全体ナドハ全ク此環線ヲ環線ト見ズシテ一
ノ延長線ト見テ例ノ三断論法ヲ以テ其進行ノ
順序ノ規定ヲヤウトシタノデ有タガ実際カラ
見ルト一ノ點ニ立テ居タノガ左ノ點ニモ移ル
モ有レハ右ノ點ニモ移ルモ有リ時トシテハ向
側ノ點ヘモ飛ンテ行クモ有ルカラ何分ニモ
延長線ト見タ所ノヘーゲル注文通リニハ行カ
ナンダノデ有ル斯ク言フ有様ニナツテ居ルカ
ラ形而上学ノ今日ノ問題ハ此四種ノ根本的立
脚地ノ上ニ立テ居ル所ノ四種ノ根本的立脚
地ノ上ニ立テ理法ノ効力ニ因テ一致シ如何ナル
ニ於テ分裂シタルノデ有ルカ斯ノ研究スルニ在
ルト考ヘル此四種ノ根本的立脚地ノ上ニ立テ
イツマデ争テ居タ所カ人類ノ智的要求ヲ充

東京原製

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 2137

タレテ之ヲ満足サセル澤ニハ行カナイノデ有ルサテ此第一契撥即チ肯自否他的契撥ノ例證ヲ挙テ説明スル為メニ之ヲ形而上学ニ應用シ能認識ノ心ヲ自トシ所認識ノ物ヲ他トシテ之ヲ言ヘハ心ト物トノ兩項ノ中自ラ能認識ノ心ガ第二理法ノ効力ニ因テ他ナル所認識ノ物ヲ自己中ニ保持包含シ自己ト融合一致セシムル心ト偖ニ他ナル物ガ第一理法ノ効力ニ因テ心ノ中ニ保持包含セラレシ心ト融合一致セラルヽ時ハ物ハ否定セラレテ心ノミカ肯定セラレ表顕セラルヽ前ニ言フタ所ノ形而上学ノ四種根本的立脚地ノ第一ナル唯心論ト云フノハ則此第一契撥即チ肯自否他的契撥ノ表現デ有ル

第二　否自肯他的契撥

第二契撥即チ否自肯他的契撥トハ相待的ニ關係シテ、存立スル所ノ兩項中ニ保持包含セラレテ自体ヲ否定シ自体ヲ

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 2137

隠没スルト倡ニ他ノ一項ハ第二元是的理法ノ
効力ニ因テ自己中ニ他項ヲ保持包含シ我ト融
合一致セレメテ其自体ヲ肯定シ其自体ノ表顕
スル所ノ契掇ヲ言フノデ有ル
又之ヲ従明スル心ガ為メノ例證トシテ之ヲ形而上
学ニ應用シ能認識ノ心ヲ自ト
他トシテ之ヲ言ヘハ心ト物トノ兩項ノ中自ラ
ル心ガ第一理法ノ効力ニ因テ他ナル物ノ中ニ
保持包含セラレル物ト融合一致セラルルト倡ニ
他ナル物ガ第二理法ノ効力ニ因テ心ヲ自己中
ニ保持包含シ我ト融合一致セラムル時ハ心ハ
否定セラレ隠没セラレテ物ノミガ肯定セラレ
表顕セラルル形而上学ノ四種根本的立脚地ノ
第二ナル唯物論ト云フノハ則此第二契掇即テ
否自肯他的契掇ノ表現デ有ル
シテ見ル心ト唯心論ガノ唯物論ダノト云フノハ
一方ガ第一契掇ニ拘泥シテ能認識ノ心ガ有ル
カラ所認識ノ物ガ有ルノデ有ルト言ヘハ他ノ
一方デハ第二契掇ニ拘泥シテイヤ所認識ノ物
ガ有ル心カラ能認識ノ心ガ有ルノデ有ルト言テ

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 2137

辛フノデ有ル恰カモ左ヤ右カ有ルカラ左カ有ルカラ右カ有ルイルイヤ裏カ有ルカラ表カ有ルト言フテ其是非當否ヲ辛フト全ク同ジクデ有ル

第三　自他倶肯的契掫

第三契掫即チ自他倶肯的契掫ト云フハ自項カ第二竟是的理法ノ効力ニ因テ他項ヲ自己中ニ保持包含シ自己ト融合一致セシメテ自体ヲ肯定シ自体ヲ自己ノ表顕スル所ノ契掫ヲ言フノデ有ル

又之ヲ説明スル為メノ例證トシテ之ヲ形而上学ニ應用スレハ自ナル能認識ノ心カ第二理法ノ効力ニ因テ所認識ノ物ヲ自己中ニ保持包含シ自己ト融合一致セシメテ自己ヲ肯定シ自己ヲ表顕スルト倶ニ他ナル能認識ノ物モ亦第二理法ノ効力ニ因テ能認識ノ心ヲ自己中ニ保持包含シ自己ト融合一致セシメテ自己ヲ肯定シ自己ヲ表顕スル時ハ心ト物ト儼存並立シテ二

元ノ形ヲ為ス形而上学ノ根本的立脚地ノ第三ナル二元論トイフノハ則此第三契機即チ自他俱肯的契機ノ表現デ有ル

第四　自他俱否的契機

第四契機即チ自他俱否的契機トハ自項カ第一充足的理法ノ効力ニ因テ他項ノ中ニ保持包含セラレ他項ト融合一致セラレテ自体ヲ否定シ他項モ亦第一充足的理法ノ効力ニ因テ自項ノ中ニ保持包含セラレ自体ヲ否定シ自他俱ニ否定シ自他俱ニ隠没スル心カ第一理法ノ効力ニ因テ所認識ノ物ノ中ニ把持包含セラレ之ト融合一致セラレテ自体ヲ否定シ自他俱ニ否定シ自他俱ニ隠没スル心ト物トヲ泯絶区別シテ一元ニ帰スル形而上学ノ根本的立脚地ノ第四ナル不可思議的一元論

又之ヲ説明スル為メノ例証トシテ之ヲ形而上学ニ応用スレハ能認識ノ心カ第一理法ノ効力ニ因テ所認識ノ物ノ中ニ把持包含セラレ之ト融合一致セラレテ自体ヲ否定シ自体ヲ隠没スル時ト俱ニ所認識ノ物モ亦第一理法ノ効力ニ因テ能認識ノ心ノ中ニ把持包含セラレ之ト融合一致セラレテ自体ヲ否定シ自体ヲ隠没スル時

東京原製

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）2137

ト言フノハ則此第四契機即チ自他俱否的契機
ノ表現デ有ル
シテ見ルト二元論タノト言フノモ
亦一方カ第三契機ニ拘泥シテ心ハ物デハ無ク
物ハ心デ無イカラ二元デ有ルト言ヘハ他ノ一
方デハ心カ無ケレハ物ハ無イト言テ争フノデ有ル恰
モ無イカラ一元デ有ルト言テ争フノデ有ル恰
カモ左ト右トハ二ツデ有ルイヤ一ツデ有ル表
ト裏トハ二ツデ有ルイヤ一ツデ有ルト言フテ
甚是非當否ノ争フト全ク同ジ

血ハ鐵楯ヲ流スマデニ奉フタ所ノ唯心論トカ
唯物論トカ二元論トカ云フノハ畢
竟關係自性ガ具有スル所ノ四種契機ヲ別々ニ把
握シ一ツ々々ニ拘泥シテ居リタノニ過キナン
ダノデ有ツテ語ノ換ヘテ言ヘバ第一章ニモ言フ
タ如ク。(其基礎ヲ)相待的ニ關係シテ存立スル所ノ兩項中
ノ一項ノ基礎ノ上ニ置キテ百方論難シテ他項
ヲ否定シヤウトシタノニ過キナンダノデ有ツ
タ。(コヽデ本章ノ說明ニ於テ)第一ニ宇宙上ニ於ル一切万有ノ實在ハ關係

自性デ有ルト明瞭ニ定リタ第二ニ從前哲學ノ
諸系統ノ間ニ何カ調停協和スルノ出來ナン
タ所ノ四種ノ根本的立脚地モ全ク關係自性カ
表現スル所ノ四種契機ニ別々ニ拘泥固執シタノ
デ有ツタト明瞭ニ分リタ是デ人類ノ智的要求
ヲ充タス可キ所ノ實在問題、理論問題即チ形而
上學的問題ハ。(元ノ)決定セラレテ第一章ニ言フタ所
ノ宇宙ノ實在ハ何デ有ルカノ疑問ニ對スル所
ノ解答ハ完全シタ次章以下ハ實行問題生活問
題ノ解答ニ移リテ人類ノ情的要求ヲ充タス可

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）2137

キ所ノ宗教哲学及ヒ人類ノ意的要求ヲ充タス
可キ所ノ倫理哲学ノ根本的基礎ヲ研究シテ第
一章ニ言フタ所ノ我ハ如何ニ生活ス可キ乎ノ
疑問ニ解答スル積りデ有ル
尚本章説明ノ本題タル四種契撥互相間ノ関係
ニ就テ一二ノ説明ヲ猛リテ居ル力ヲ終ニ臨ム
テ一言スル
第一契撥ト第二契撥ト第三理法ト第一理法
トノ効力ニ因リト倶ニ第四理法立理法ノ効力ニ因テ表現セラルヽノデ有ル

東棒原製

ラ両項互ニ相違シテ自項ヲ肯定スレハ他項ヲ
否定シ(第一契撥)自項ヲ否定スレハ他項ヲ肯定
スル(第二契撥)又第三契撥ト第四契撥ト第一
理法ト第二理法トノ効力ニ因ルト倶ニ第四理
法即チ相依的存立理法ノ効力ニ因テ表現セラ
ルヽノデ有ルカラ両項互ニ相依シテ自項ヲ肯
定スレハ他項ヲモ肯定シ(第三契撥)自項ヲ否定
スレハ他項ヲモ否定スル(第四契撥)ノデ有ル
又第一契撥ノ肯自ト第二契撥ノ肯他ト合シテ
ノガ第三ノ自他倶肯的契撥デ有テ第一契撥ノ

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 2137

否他ト第二契機ノ否自ト合シタメノカ第四ノ自他俱否的契機デ有ル第三契機ノ肯自否他的契機デ有リ第四契機ノ否他ト合シタノガ第一ノ肯自肯他的契機デ有リ第三契機ノ肯他ト第四契機ノ否自ト合シタノガ第二ノ否自肯他的契機デ有リ、デ有ルカラシテ此四種契機ハ四ツデ有ルガ一ツデ有ルト言ヘハ一ツデ有ル恰カモ開係自性ト言フ一ツノ中心點ノ前後左右ノ四邊カラシテ望メタヤウナ者デ有ル

又此四種契機ハ肯定的即チ表徳的ニ組繫スル

東樣原製

ハ契機ト契機ト互ニ相助ケ互ニ相成シ互ニ相待映シテ一契機モ缺クルコトノ許サスシテ一切万有炳焉緊立シテ円満具足スルハ契機ト契機ト否定的即チ癒情的ニ組繫スルニ相俟テ一契機ノ立ツヲモ許サスシテ唯開係自性ノミ超然孤立シテ缺クル所モ無ク餘ス所モ無イ一切ノ思考一切ノ言語ハ皆此開係自性ノ表現デ有ルケレドモ一切ノ思考一切ノ言語中ニ一モ此開係自性ノ完全ニ表示スルニ足ル者カ無イ一切

ノ思考一切ノ言語中ニ一モ此関係自性ヲ完全ニ表示スルニ足ル者ガ無イケレドモ一切ノ思考一切ノ言語ハ皆此関係自性ノ表現デ有ル

備考第一　佛教中ノ真言流デ應情及ヒ表徳ト言フノハ此意味デ有テ真言流デハ應情ヲ以テ顕教ノ本分トスル表徳ヲ以テ密教ノ立脚地デ有ルト考ヘタ者デ有ル

ノハ此四句ヲ逐次ニ積ミ上ゲテ二十五ノ四句合シタノデ有ル兎角佛教中ニ否定的即チ應情的ノ文句ガ多イノハ所謂轉迷開悟ノ手段カラ来タノカモ知レヌ之ニ拘泥シテ佛教ハ一切皆空論デ有ルト考ヘル心ノハ甚ダ間違ヒデ居ル解釈デ有ル

備考第三　佛教中ノ禅宗デ理致撥開ナドヽ云フノハ畢竟学者ガ一理法又ハ一契撥ニ拘泥スルノヲ嘲笑シ貫通シ又ハ学者ヲシテ一理法又ハ一契撥ノ上カラシテ諦的ニ本地ノ風光ニ接セシムル（東洋自由）ノ手段デ有ル而シテ臨済ノ四料簡ハ全ク四種契撥ト吻合

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）2137

東京 原製

備考第一　禅宗

備考第二　佛教ニ四句ノ離レ百非ノ絶スルナド云フハ四句ハ則第五章ニ言フ絶言ノ事ニ外ナラス

備考第三　佛教中禅宗ニ理致撥開ナドト云フハ此否定的即チ遮情的ニ四句ニ積ミ上ゲテ二十五ノ四句ヲ離レ百非ヲ絶スルヲ免レ佛教中ニ否定的

即チ遮情的ノ文句カ多イノハ所謂轉迷開悟ノ手段カラ来タノカモ知レヌ之ニ拘泥シテ佛教ハ一切皆空論デ有ルモノハ甚ダ間違ヒデ居ル解釈デ有ル

備考第三　佛教中禅宗ニ理致撥開ナドト云フノハ畢竟学者ガ一理法又ハ一契撥ニ拘泥スルノヲ嘲ケル意味デ一理法又ハ一契撥ノ上カラ云ヘバ論的ニ本地ノ風光ニ接セムルノ手段デ有ル而シテ臨済ノ四料簡ハ全ク四種契撥ト吻合

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）2137

レテ居テ奪境不奪人ハ第一契拠奪人不奪境ハ第二契拠人境俱不奪ハ第三契拠人境俱奪ハ第四契拠ニ當レノデ有レ

尚本章ニ説明シタ所ノ四種契拠ト前章ニ説明シタ所ノ四種理法ノ通シテ一言セネハナラヌガ有ル其レハ外デハ無イ四種理法中及ヒ四種契拠中ノ各理法及ヒ各契拠ノ間ノ關係デ有ル今一理法若シクハ一契拠ノ拳テ自トスレハ他ノ三理法若シクハ他ノ三契拠ハ他デ有レカラテ第三理法ノ効力トシテハ他ノ三理法若シクハ他ノ三契拠ノ中ニ把持包含シ第四理法ノ効力トシテハ他ノ三契拠ニ相違シ第四理法ノ効力トシテハ他ノ三理法若シクハ他ノ三契拠ト互ニ相依シ第一理法ノ効力トシテハ自己ハ他ノ三理法若シクハ他ノ三契拠ト互ニ把持包含シ第二理法ノ効力トシテハ他ノ三契拠ノ自己中ニ把持包含シ自己ト融合一致セレムルノデ有ルカラ一理法若シクハ一契拠ハ一切理法若シクハ一切契拠デ有テ一切理法若シクハ一切契拠ハ一理法若シクハ一契拠デ有ルノ妨ケヌト

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）2137

考ヘラレタリヲ又

備考　佛教中ノ天台宗ニ於テ四論三論ナ

ド、云フノハ此事デ有ル

第七章　應用第二　四種契機ノ宗教指

学ニ於ル應用ニ就テ

余カ宗教哲学ニ向テ根本的基礎ヲ供給シテ人

類ノ情的要求ヲ充タサムト欲スルト言フタノ

ハ第一章ヲ參照（シ）必スシモ宗教ハ智的作用及ニ意

的作用ト（ノミ）關係スル所カ無イト言フ意味デハ無

イ唯眼前宗教的事実ニ徴シテ宗教的意識及ヒ

宗教的信念ハ全ク神ヲ畏怖シ神ヲ敬愛シ神ニ

依賴シ神ニ親近セムト欲スル所ノ情的作用デ有

ルカラノ事デ有ル夫ノ神ヲ知ラントスルニ

ホ

東京帝國大學圖書館藏

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）2137

イエルバツハナドノ言フ如キ面倒ナコニ入リタル理屈カラ言フノデハ無イ而シテ各宗教ノ起原ノ歴史的ニ穿索シタナラハ何レモ有ルデ有ウ種々様々ノ個人ノ術数ニ由来シタノモ有ルデ有ウ個人ノ迷信ニ由来シタノモ有ルデ有ウ種々様々ノ宗教其者ハ人類ノ情的要求ノ充タス為メニハ是非トモ有ル可キ者是非トモ無クテナラヌ者デ有ルト考ヘル宗教ニモ祥物教偶像教多神教等未開不文ノ宗教ハ種々様々有ルガ余カ宗教学トシテ今茲ニ研究セムト欲スルノハ東西

文明世界ニ行ハレテ居ル所ノ一神教ガ目的デ有ルカラシテ余ハ宗教ヲ以テ絶待ト相待トノ関係即チ神ト宇宙トノ関係デ有ルト解釈スル而シテ宗教上ニ於ル神ト言フ概念ニハ多ク神ノ以テ絶待者トノ意味ヲ含蓄シテ居ル或ハ神ト摂理者ニ為シ或ハ創造者ト為シ或ハ全能者ト為シ或ハ全智者ト為ス等其宗教ノ由来ニ随テ種々様々ナ妬者ト為シ或ハ全善者ト為シ或ハ全美無イノハ勿論デ有ルト考ヘル各種ノ宗教ニ応用シテ差支無イノハ勿論デ有ルト考ヘル

東京帝國大學藏書

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）2137

カラ余ハ宇教ヲ以テ絶待ト相待トノ関係テ有ルト解釈スルノデ有ル

絶待トハ「ト」マデモ言フト如ク相待デ無イト言フノデ有テヤハリ相待ト相待的ニ関係シテ存立スル所ノ両項ノ一項デ有ル故ニ絶待カ有レハ相待カ有リ相待カ有レハ絶待カ有ルケレドモ相待ヲ離レテ絶待無ク絶待モ相待モ偶ニカタヽバカリデ孤存独立スルヲ又孤立独存スルト考ヘルノモ出来ヌノデ有ル

ソコデ東西ノ文明世界ニ行ハレテ居ル所ノ宗教的観念ハ種々様々有ルガ其種類ヲ概括シテ言ヘハ其根本的基礎ハ大要四種ノ外ニ出テヌ即チ神ノミ実在シテ宇宙ハ人類ノ妄想若シクハ神ノ虚影ナルニ過キヌト主張スル所ノ無宇宙論ト宇宙ハ神ノ創造摂理ヲ待タスシテ自存自立スルト主張スル所ノ無神論ト神ト宇宙トハ双存並立スルト主張スル所ノ有神論ト神ハ則宇宙ニシテ宇宙ハ則神デ有ルト主張スル所ノ汎神論トノ四ツデ有ル其中最モ古ク且ツ

pantheism　atheism　theism　acosmism

東京榛原製

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）2137

行ハレテ居ル／ハ基督教的有神論デ有ルガ神ヲ以テ全智全能者ト為スト雖モ則全ク神ノ全智全能ノ光輝発越スル所デ有ル／ト見テハナラヌ左ウスルト罪悪論ヤ救拯論ナドガ哲学的眼光カラ見ルト今ヲヌケニナルカラ完全ニ人類ノ情的要求ヲ充タスコトガ出来ヌ神ノ全智全能カラシテ言ヘバ無宇宙論ニ向テ安心立命ノ地ヲ求メルハナラヌ譯ニナルガ併シナカラ印度ノヴエダンタ派ノサンカラ尊者ナドカ如何ニ無宇宙論ヲ主張シテモ何分眼前ニ現在シテ居ル所ノ一切万有ヲ否定シ消滅サセル譯ニハ行カヌカラ無宇宙論モ亦哲学的眼光カラ見ルト無意味ナ分ヲヌケコトニナルカラ人類ノ情的要求ヲ充タスコトガ出来ヌ然ラハ則支那後世ノ儒教ヤ印度ノ順世外道ナドノ如ク無神論ノ上ニ於テ安心立命ノ地ヲ求メヤウカトスレハ是モ亦哲学的眼光カラ見レハ此宇宙上ノ一切万有カ相待デ有ルト言フ事ノ可ラサル所ノ真理デ有ルト同時ニ絶待無ラレテ相待ノミカ存立シ能ハヌト云フ事モ亦全ク可ラサ

東禁原製

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）2137

ル所ノ真理デ有ル力ラシテ無神論モ亦十分ウヌヌデ有ルカラ是ヲ充タスヌヌガ出来ヌ然ラハ則獨逸ノ哲学諸家一般ニ其傾向ヲ持テ居ル所ノ汎神論ニ向テ安心立命ノ地ヲ求ム可キ乎元来汎神論ニハ種々様々ナ意味ヲ含マセテ有ルガ大要ヲ概括シテニヌニ分テ言ヘハ第一ニ宇宙カ神デ有ルト云ヌ説デ有ル一切万有カ炳焉羅列シテ此宇宙ヲ(ニ綿名ヲツケテ)神ト名ツケタマデノヌヌデ無神論ト何モ異ルヌハ無イ第二ニハ神ガ宇宙デ有ルト云ヌ説デ有ル一切万有カ炳焉羅列スル所ノ此宇宙ハ神ノ威徳ノ光輝発越シタノミデ有ルト云ヌヌナラバ無宇宙論ト何モ異ルヌハ無イ無神論ト無宇宙論トカ皆理的ニテ有テ人類ノ情的要求ヲ充タスニ足ラヌヌハ前ニ言ヌ如クデ有ル力ラ汎神論モ亦之ヲ分析シテ見ルトヤハリ人類ノ情的要求ヲ充タス出来ヌノデ有ル有神論モ無宇宙論モ無神論モ汎神論モ哲学的眼光カラ見ルトヤハリ人類ノ情的要求ヲ充タス出来ヌノデ有ル有テ人類ノ情的

東京原蔵

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 2137

要求ヲ充タスコトカ出来ヌトスレハ仝ト
融會貫通スルノ道ヲ講セナラヌ又元来人類
ノ宗教的意識ハ情的作用ニ起因シテ居ルケレ
トモ又常ニ智的作用ノ認諾ヲ得テ始メテ満足
スル者デ有ル余カ本意ノ眉頭ニ宗教ハ必スシ
モ智的作用及ヒ意的作用ニ關係(少シモ)ナシト言フ意味ニハ無イト断リ
有テ中世紀ノ「スコラ」哲学ナドカ信向ト理論ト
ヲ調和シヤウトシテ七顛八倒シタノハ仝ク之
カ為メデ有ル今ノ牧師ナドカ一面ニハ神ヲ畏
怖シ神ヲ敬愛シ神ニ依頼シ神ニ親近セムト又
心情的作用ヲ喚起シ他ノ一面ニハ実在論カラ
宇宙論カラ物理学カラ又ハ倫理学カラシテ神
ノ有ル事ヲ證據立テヤウトスルニハ仝ク之カ
為メデ有ル
余ハ更ニ眼ヲ一轉シテ現今行ハレツヽ所ノ各種
ノ宗教的観念ハ關係自性ノ都合ニ基ク如何ナル理法ノ効
力ニ因リ如何ナル契機ノ表現ナル乎ヲ研究シ
真成ニ完全ニ人類ノ智的作用ノ認諾ヲ得テ情
的要求ヲ充タスヲ可キ所ノ宗教的根本的基

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 2137

樓ヲ備休セヌハナラヌト考ヘルカラ左様ニスル

而シテ上ニ列挙シタ所ノ現今行ハレ居ル所ノ無宇宙論無神論有神論及ニ汎神論ノ四種ノ詳細ニ検査シテ見ルトヤハリ四種契機ノ表現デ有テ別々ニ之ヲ把捉シ一ツ々々ニ之ニ拘泥スレハ実ニ背理的ナ無意味ナ分ラヌコトデ有ルケレドモ其基ツク所ノ理法ヲ繹ネテ之ヲ融合貫通スレハ完全ニ満ツル一ノ宇宙宗教ノ根本的基礎ト成スノデ有ル

前ニモ言フタ如ク宇宙教ハ絶待ト相待トノ関係デ有ルカラ絶待ナル神ト相待ナル宇宙トノ関係ヲ絶待的ニ関係シテ存立スル所ノ四種ヲ第三章ニ於テ説明シタ所ノ四種ト是ガ理法ト四種契機トニ応用シテ前ニ言フ所ノ四種ノ宇宙教的観念ヲ検定シテ見レハ

絶待ナル神ノ自ト相待ナル宇宙ヲ他トシ之ヲ言ヘハ第一ニ絶待ナル神カ第二理法ノ効力ニ因テ相待ナル宇宙ノ自己中ニ把持包含シ自己ト融合一致セシメテ自体ヲ肯定シ自体ヲ表

東京原製

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 2137

顕スルト倶ニ相待ナル宇宙ハ第一理法ノ効力ニ因テ絶待ナル神ノ中ニ保持包含セラレ之ト融合一致セラレテ自体ヲ否定シ自体ヲ隠没スルト倶ニ相待ナル宇宙ハ第二理法ノ効力ニ因テ絶待ナル神ノ自己中ニ把持包含セラレ之ト融合一致セルメテ自体ヲ肯定シ自体ヲ表顕スル時ハ是第二ニ絶待ナル神ハ第一理法ノ効力ニ因テ相待ナル宇宙ノ中ニ把持包含セラレ之ト融合一致セラレテ自体ヲ否定シ自体ヲ隠没スルト倶ニ相待ナル宇宙ハ第二理法ノ効力ニ因テ絶待ナル神ノ自己中ニ把持包含セラレ之ト融合一致セルメテ自体ヲ肯定シ自体ヲ表顕スル時ハ是第二ニ絶待ナル神ハ否定ニシテ神ハ否定ニシテ神ハ否定表顕セラルル故ニ前ニ言フタ所ノ宇宙ハ神ノ創造摂理ヲ待タスシテ自存自立スルト主張スル所ノ無神論ハ則全ク此第二契機ノ表現デ有ル心

主張スル所ノ無宇宙論ハ則全ク此第一契機ノ表現デ有ル

第二ニ絶待ナル神ハ第一理法ノ効力ニ因テ保持包含セラレ之ト融合一致セラレテ自体ヲ否定シ自体ヲ隠没スルト倶ニ相待ナル宇宙ハ第二理法ノ効力ニ因テ絶待ナル神ノ自己中ニ把持包含セラレ之ト融合一致セルメテ自体ヲ肯定シ自体ヲ表顕スル時ハ是第二ニ絶待ナル神ハ否定ニシテ神ハ否定表顕セラルル故ニ前ニ言フタ所ノ宇宙ハ神ノ創造摂理ヲ待タスシテ自存自立スルト主張スル所ノ無神論ハ則全ク此第二契機ノ表現デ有ル心

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 2137

第三ニ絶待ナル神カ第二理法ノ効力ニ因テ相
待ナル宇宙ヲ自己中ニ把持包含シ自己ト融合
一致セシメテ自体ヲ表顕スルト
倶ニ相待ナル宇宙モ亦第二理法ノ効力ニ因テ
絶待ナル神ヲ自己中ニ把持包含シ自己ト融合
一致セシメテ自体ヲ肯定シ自体ヲ隠没スル時
ハ是第三ナル自他倶肯的契撥ノ表現ニシテ神
ト宇宙ト双存並立スル故ニ神ト宇宙ト双存並
立スルト主張スル所ノ有神論ハ全ク此第三契
撥ノ表現デ有ル

東京原製

第四ニ絶待ナル神カ第一理法ノ効力ニ因テ相
待ナル宇宙ヲ自己中ニ把持包含シ自己ト融合
致セラレテ自体ヲ否定シ自体ヲ隠没スル時ハ是
ニ相待ナル宇宙モ亦第一理法ノ効力ニ因テ絶
待ナル神ノ中ニ把持包含セラレ之ト融合一致
セラレテ自体ヲ否定シ自体ヲ隠没スル時ハ是
第四ナル自他倶否的契撥ノ表現ニシテ神ト宇
宙ト冥合スル故ニ神ハ則宇宙ニシテ宇宙ハ則
神ナリト主張スル所ノ汎神論ハ全ク此第四契
撥ノ表現デ有ル

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 2137

此ノ如ク現今ニ行ハレテ居ル所ノ四種ノ宗教的観念ヲ四種充足的理法ニ掛ケテ検定シテ見ルニ單竟四種契機ノ表現タルニ過キヌ四種ノ宗教的観念ノ爭ハ言ハヽ關係自性ヲ中心點ニシテ前カラ後カラ左カラ右カラ望メテコチラカ正面デ有ルイヤコチラガ正面デ有ルト言フテ其何レカ正面デ有ル乎ヲ爭フヤウナ者デ有ル此四種ノ宗教的観念ハ皆四種充足的理法ノ効力デ有ルカラ。其観念。其レ自身カラ見レハ何レモ絶待的真理デ有ルニ相違無イガ甲ノ主張スル所ハ乙ノ容易ニ之ヲ否定スルト同時ニ乙ノ主張スル所モ亦甲ハ容易ニ之ヲ否定スルノガ出來ルノハ丈ケノ關係ト少シモ異ラヌ故ニ否定的即チ遮情的ニ言ヘハ四種契機ノ宗教的観念ハ經驗論、観念論ト実在論トノ如ク互ニ相破シ互ニ相害シテ一ノ観念モ存立スルコトノ許サヌケレドモ肯定的即チ表徳的ニ言ヘハ四種契機ノ観念ハ唯物論、純理論ト唯心論トノ如ク互ニ相助ケ互ニ相成ル一ノ観念ノ缺ケ

東京帝國大學藏書

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 2137

心ヲシテ許サズメヌ有ル（カノ四種ノ宗教的観念ニ相助ケ互ニ相依ニテ一ノ観念ヲ成スヲ謂ヒテハナラヌノデ有ル）
然ラバ則真成ニ完全ニ人類ノ智的作用ノ認諾
ヲ得テ情的要求ヲ充タス可キ所ノ宗教哲学ノ
根本的基礎ハ何デ有ル辛ト言ヘバヤハリ一切
ノ実在タル開係自性ノ理法及ビ契機ヲ明ニシ
テ之ヲ畏怖シ之ヲ敬愛シ之ニ依頼シ之ニ親近
シテ終ニ第四理法ノ効力ヲ其保有スル所
ノ両項中ノ一項タル、地位ヲ脱却シテ開係自
性ノ中ニ保持包含セラレ之ト融合一致スルガ
人類ノ情的要求ノ極致デ有テ是ガ則真成ニ完
全ニ人類ノ情的要求ヲ充タシ（スヲ謂ヒ）テ根本的基礎デ有ル所ノ宗教哲学
ハ開係自性ハ則真正ノ神デ有ル之ヲ喚テ佛ト
言フ可クムハ開係自性ハ則真正ノ佛デ有ル吾
人ハ則真開係自性カ必然ニシテ保有スル所ノ
両項中ノ一項トシテ存立スルカ故ニ吾人ハ則
直チニ神ノ子デ有ル亜チニ佛ノ化身デ有ルト
言ヒ得ルノミナラズ又終ニ開係自性ト妙合一致
シテ吾人ハ亜チニ神デ有ルト言フテモ決シテ
憑虚架空ノ論デハ無クシテ確乎不抜ナル完足

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）2137

的理法ノ効力トシテ此ノ如
クニ言ヒ得ルノデ有ル
無宇宙論モ無神論モ有神論モ汎神論モ一切ノ
実在ナル真正ノ神ナル開係自性カ具有
スル所ノ四種完全的理法ノ効力トシテ表現シ
タル四種契機中ノ一契機デ有ルカラシテ只之
ヲ別々ニシテハ完全ナル宗教的観念ニハ
無イト言フマデノ事デ有テ時ト場合ニ因テ多
少トモ世道人心ニ利益スル所有ル可キハ決シ
テ之ヲ疑ハヌノデ有ルミナラス結局此開係

自性ヲ以テ中心トスル所ノ宗教的観念ノ真ノ
根本的基礎ヲ確定シテ各自其偏僻ナル意見ヲ
去テ之ト大同団結スルヲ出来ル道理デ有ル
ト考ヘル

第八章　應用第三四種契機ノ倫理哲學ニ於ル應用ニ就テ

余ハ第二章ニ於テ人類ノ知的要求ヲ充タス可キ所ノ形而上学ノ根本的基礎ヲ定メ前章ニ於テ人類ノ情的要求ヲ充タス可キ所ノ宗教哲学ノ根本的基礎ヲ定メタカラ本章ニ於テハ人類ノ意的要求ヲ充メス可キ所ノ倫理哲学ノ根本的基礎ヲ研究スルノ開係哲学全体ヲ理論的ト実行的トノ二部ニ大別スレハ第六章ハ理論的部門ニ有テ前章ト本章トハ実行的部門

デ有ル

前章ニ於テ情的要求ト云フニ就テモ一言シタ如ク倫理ハ意的要求ヲ充ト言フテ智的作用及ビ情的作用ニ關係スル所カ無イト云フ譯デハ無イ唯無意志ノ行為ハ土臺カラシテ倫理問題ノ外ニテ有テ意的要求カ有テ而シテ後始テ倫理問題ハ起ルカラ此ノ如ク言フタノデ有ル併シナカラ倫理的觀念ノ根本的基礎ヲ定ムルニ云フノハ則既ニ已ニ智的作用ノ認諾ヲ求ムルニ在テ其實行上ニ於テハ情的作用ノ力ニ待ツ所カ最モ多イノハ言フマデモ無イ事デ有ル

宗教哲學モ倫理哲學モ同ク實行的部門ニ屬スルノデ有ルケレドモ倫理哲學ハ別シテ我カ如何ニ生活スヘキ乎ト云フ人生ニ於ル第一ノ問題ニ對シテ直接ニ其方向ヲ指導スルノデ有ルカラ其根本的基礎ハ最モ鞏固確實ニ之ヲ決定シテ置カナケレハナラヌ

倫理ハ自他ノ關係デ有ル諸ヲ換ヘテ言ヘハ人我ノ關係デ有ル而シテ自他關係上其行為ノ善

東京橡原製

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 2137

悪ノ判定スルニ當リ或ハ童キヲ行為ニ先ツ所
ノ動機若シクハ意向ニ置キ或ハ童キヲ行為ノ
目的若シクハ結果ニ置ク等其説甚タ面倒デ有
ルガ余ハ是等ヲ以テ格別急要ノ事柄デ有ルト
ハ考ヘズ只自他倶ニ有益ナルヲ善ト言ヒ自他
倶ニ有害ナル若シクハ有益ヲ妨ケルヲ悪ト言
フト概定シテ而シテ五接ニ真ノ善的行為ハ自
ラ愛スルニ在ル乎他ヲ愛スルニ在ル乎自他ヲ
兼愛スルニ在ル乎或ハ又自ラモ愛セス他ヲモ
愛セサル(いわゆる)他律ニ服従スルニ在ル乎ノ東西古今ノ倫理学界ニ於ケル争論ヲ決定スルガ
早手廻シテ有ル第一ノ愛自説(egoism)ハ東洋デハ楊朱
ノ自ラ為ニスルノ説欧洲デハアリスチポスノ利
ヒタロースル等ノ快楽説ヲ初トシテホッブスノ利
己的快楽説ベンガムミル等ノ尚利説ニ一千ノ
ノ本能論等欧洲ノ倫理学界ニ於テハ随分有力
ノ説デ有ル第二ノ愛他説(altruism)ハ東洋テハ孔子ノ身
ヲ殺シテ仁ヲ成スノ説佛教ノ不惜身命説欧洲
デハ本能論良心論ヲ主張スル所ノ倫理学者ノ
中ニハ往々此傾向ガ有ル第三ナル自他兼愛説(moral communism)

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 2137

ハ東洋デハ墨翟ノ兼愛説欧
愛説其他支那欧洲ニ於ル各流ノ倫理学者ノ多
クハ之ヲ以テ目的ト為シテ居ルヤウニ見ヘル
ベシ ザムミル等ノ最大幸福説スペンセルノ進
化的快楽説ナドモ自他兼愛説ニ近イ所ガ有ル
又第四ナル他律説ハ東洋デハ老子ノ自然説欧
洲デハ政権又ハ教権ナドニ無條件ニ服従シテ
自ラモ愛セス他ヲモ愛セス一向ニ之カ犠牲タ
ルヲ甘ムズル一派デ有ル又老子ナドノ自然説
ハ自然ヲ尚ヒ自ラモ愛セス他ヲモ愛セス自他

人我ヲ忘レテ太和ノ中ニ優游スルヲ以テ至善
ト見タ説デ有テ畢竟愛自ト カ愛他ト カ自他兼
愛ト カ言フ偏理説ヲハ以テ偽善ト見タ所ノ痕
迹ガ先子ノ書ナドニ往々見ヘテ居ル畢竟自他
人我ノ関係ヲ規定スルノ道ハ如何ニ穿鑿シテ
見テモ如何ニ新発明ヲ仕ヤウトシテ見テモ此
四種ノ説ノ外ニモハヤ説ノ立ヤウノ無イ必然
ノ数デ有ルノデ有ル

ソコデ自他人我関係上ノ行為善悪ノ區別ニ就
テハ行為ニ先タツ所ノ動機若シクハ意向モ行

東京傳製

heteronomism

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 2137

為ノ目的若シクハ結果モ自他倶ニ有益ナルヲ善ト為シ自他倶ニ有害ナル若シクハ有益ヲ妨クル所ノ行為ガ悪デ有ルト決定シ。ヲ訂テ。ヲ改テ此四種ノ説ハ皆果シテ自他倶ニ有益ナル結果ヲ得ルデ有ラウ乎或ハ又此四種ノ説ノ中或ル説ハ自他倶ニ有益ナル結果ヲ得或ル説ハ自他倶ニ有害デ有ル乎又ハ自他ノ有益ヲ妨クルノ結果ヲ来スデ有ラウ乎倫理上ニ此四種ノ説カ起リタノハ如何ナル理法ノ効力トシテ表現シタ所ノ如何ナル契機デ有ル乎ソモ本源ニ溯テ

研究シテ見タ上デ無クテハ人類ノ意的要求ヲ充タス所ノ倫理哲学ノ基ヲ定ムル譯ニハ行カヌ

余ノ考ヘタ所デハ第一ナル意自説モ多少ノ真理ヲ含マヌデハ無イガエピクロースノ快楽説カ大ニ凡俗ノ潰乱シホウヲスノ利己的愉楽説カ大ニ社會ノ道徳ノ害シタ例ハ人類ガ宇宙上ニ生存スル間ハ他ニ共存スルニ因テ生存シ得ルノデ酸厳ナル愛自説ハ自ラ愛スル所以デ無イト考ヘル第二ノ愛他説モ同シ

東京 榛原製

テ有テ多少ノ真理ヲ含ム
已ノ生存スルニハ他ト共存
テ生存シ能ハサルト奇シ
并自己ト共存スルニ非レハ決シ
ハヌノデ有ルカラ唯自ラ以
ヲ以テ倫理ノ根本的基礎トス
ト考ヘル殊ニ東洋諸国ノ倫理ニ於テ人々自ラ
義務ノ甘ンジ卑屈ニシテ自ラ権利ヲ敢テスル
ヲ知ラサルカ如キ畢竟愛他説ノ餘弊デ有テ
大ニ自他ノ関係ヲ誤リ大ニ人類社會ノ発達ヲ

妨ケル第三ナル自他兼愛説ハ表面上甚タ立派
デ有ルノミナラス又多少ノ真理ヲ含ムテ居ラ
又デハ無イガ其実ヲ分析シテ見レハ畢竟自他
人我ハ常ニ其利害ヲ異ニシ其得失ヲ同フセヌ
場合ガ多クシテ自他ヲ兼愛スルト云フハ口
テ言ヘハ甚タ立派デ有ルケレドモ其形的ニ一
々之ヲ実行シ能ハサル場合カ多イカラシテ是
ノミヲ以テ倫理哲学ノ根本的基礎トスル譯ニ
ハ出来ヌ又第四ナル他律説モヤハリ多少ノ真
理カ含マレテ居ルノミナラス所謂第一理法ノ

効力ニ因レバ一切万有ハ自己ヲ他ノ中ニ保持包含セラレ他ト融合一致セラルヽノデ有ルカラ是モ亦倫理上ノ一ノ手段方法デハ有ルケレドモ只其保持包含セラレ融合一致セラルヽノカ一切ノ実在タル関係自性デ無ヲ漠然タル自然トカ或ハ又他ノ政権ヤウ教権ヤラデ有ルカラシテ是モ亦完全ナル倫理哲学ノ根本基礎ニ為ルヽカ出来ヌ的

然ウハ則完全四満ナル倫理哲学ノ根本的基礎ハ決シテ発見スルヿガ出来ヌヤウナ言ヘハ決シテ左ウデハ無イ畢竟以上四種ノ説ガ何レモ完全四満ナル倫理哲学ノ根本的基礎ヌノハ是モ亦関係自性ヲ具有スル所ノ四種契機ヲ一ツヽヽヽ別々ニ把捉シテ之ニ拘泥スルカラデ有ル

第一ナル愛自説ハ第二理法第一理法及ヒ第三理法ノ効力ニ因テ自ラ肯定シテ他ヲ否定スル所ノ第一契機即チ肯自否他的契機ノ表現デ有ル第二ナル愛他説ハ第二理法第三理

法ノ効力ニ因テ自ヲ否定シ他ヲ肯定スル所
ノ第二契機即チ否自肯他的契機ノ表現デ有ル
第三ナル自他兼愛説ハ第二理法及シ第四理法
ノ効力ニ因テ自ヲモ肯定シ又他ヲモ肯定スル
所ノ第三契機即チ自他倶肯的契機ノ表現デ有
ル又第四ナル他律説即チ自ヲモ愛セス他ヲモ
愛セスシテ無條件ニ或ル他ノ權威ニ服從スル
ノ説ハ第一理法及シ第四理法ノ効力ニ因テ自
ヲモ否定シ又他ヲモ否定スル所ノ第四契機即
チ自他倶否的契機ノ表現デ有ル。四種ノ倫理説

ノ由テ起ル所ノ理法及シ契機ヲ検定シテ見レ
ハ此ノ如ク開係自性カ具有スル所ノ四種完足
的理法効力ノ必然トシテ表現スル所ノ四種契
機ニ由来シテ居ルノデ有ル此外ニ他ノ説ヲ発見シ之ヲ悟シテ西ツニスルヲモ此説ノ中ノ一説ヲ略シ之ヲ減シテ三ツニスルヲモ出来又譯デ有ラウハナラヌ等デ有ル

然ラハ則完全ナル倫理哲学ノ根本的基礎ハ如何ニ之ヲ定ム可キ乎ト言フニ其基礎ヲ相待的ニ開係シテ存立スル所ノ兩項即チ自他ノ

東京帝國大學圖書之印

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 2137

上ニ置カズシテ各人現象ナル自己ノ実在ト関係自性ノ中ニ把持包含セラレ若シクハ自己中ニ関係自性ヲ保持包含シ自己ト融合一致セルメテ自己ハ則関係自性ニシテ関係自性ハ則自己ニシテ自己ノ愛スルト乎他ノ愛スルト乎他ノ愛スルト乎ト言フ一方面ニ偏僻スル所ノ卑下陋劣ナル現象ノ地位ヲ脱却シ高尚雄偉ナル実在ノ本分ヲ（具現象タル一切ノ万有）保有シ一理法若シクハ一契機ニ拘泥スルヿ無

（全局ヲ大観シテ全局ヨリ判断シ宜シクヘ自ヲ愛スル可クムハ自ヲ愛シ他ヲ愛スル可クムハ他ヲ愛シ自（宜シク）他ヲ兼愛スル可クムハ他律ニ服従スル可クムハ他律ニ服従シ活潑々地自由自在ニ自他関係上ノ行為ヲ規定スルノガ則意的要求ヲ充タス所ノ倫理哲学ノ根本的基礎（ル）デ有ル之ニ因テ透明ナル智識モ正当ナル仁愛モ又果断ナル勇気モ自ラ充満完備シテ所謂智仁勇ノ三徳ヲ各人ニ具足シ各人以テ聖賢タル可ク各人以テ英雄豪傑タル可ク各人以テ神若シクハ神ノ子神佛菩薩タル可ク各人以テ神若シクハ神ノ子神

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）2137

ノ代理者タルヲ得可キノミナラズ有ル
往前ニ於ル東西古今ノ倫理学界ニハ絶テ此ノ
如キ雄偉高尚ナル倫理的観念ハ無ワタ手ト言
フト左ウデハ無イ「已ノ欲セサル所ハ人ニ施ス
莫レ」〔孔子〕トカ「偬テ人ニセラレムト欲スル事ハ
汝モ亦人ニ其如ク為セ」〔耶蘇〕トカ「三界衆生ハ悉
ク是吾子ナリ」〔釈迦牟尼〕トカ「天地万物ヲ一体ト
為ス」〔宋明ノ諸儒〕トカ言フタノハ皆此雄偉高尚
ナル倫理的観念ノ知ラズ識ラズノ間ニ光輝発
越シタノデ有ル「知ラズ識ラズノ間ニ光輝発越
シタノデ有ルケレドモ宇宙上ニ於ル一切万有
ノ実在タル開係自性ト其具有スル所ノ理法ノ効力トシテ表現スル所ノ理法ト系
統的ニ研究シテ自證的真理ヲ挿ヘテ之ヲ言フ
ノデ無イカラ只一個人ノ臆断ト言フ者ニ為リ
テ仕舞フテ倫理哲学ノ根本的基礎ニ就テ千秋
万古是非得矢ノ論カ已マナンダノデ有ル

東京原製

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 2137